

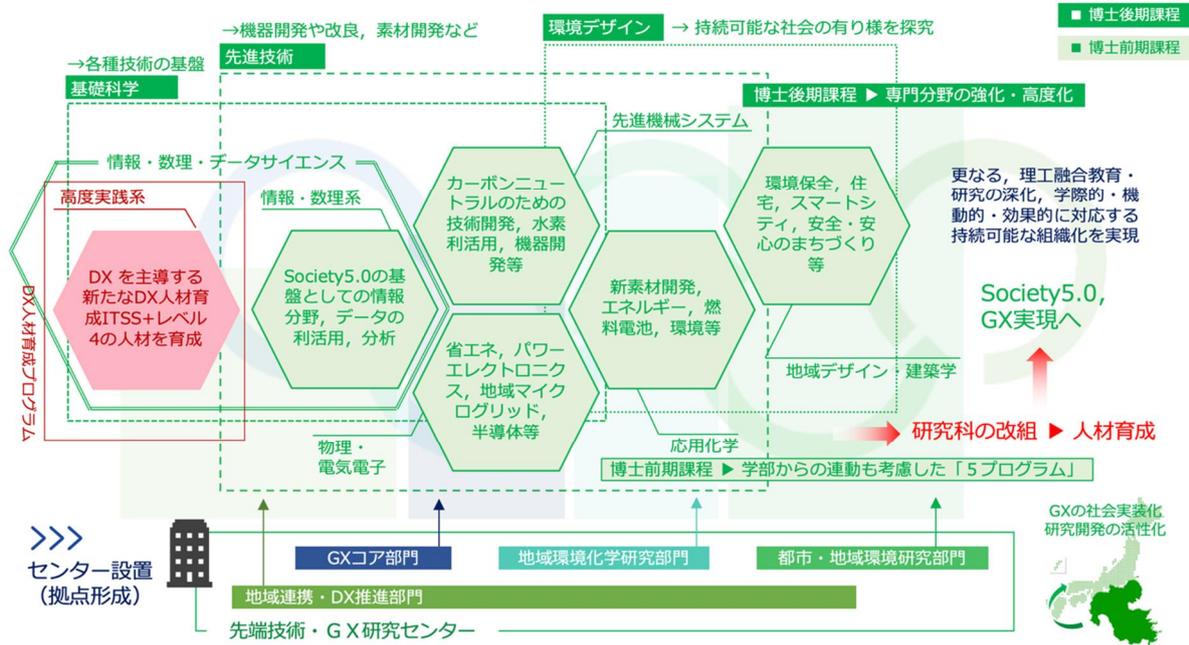
大分大学大学院 理工学研究科 理工学専攻  
(博士前期課程・博士後期課程)

学生の確保の見通し等を記載した書類 添付資料

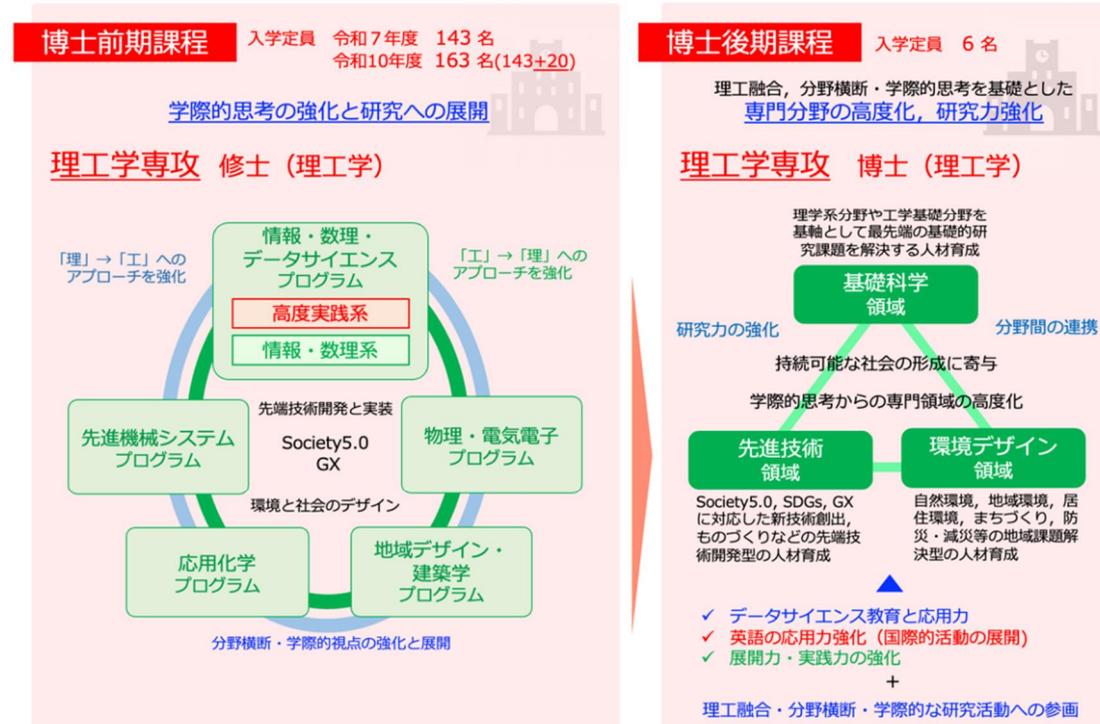
目次

資料1	リソースのカテゴライズと構成	2
資料2	アンケートの案内と説明に用いた資料	3
資料3	理工学研究科博士前期課程への進学意向調査結果	5
資料4	理工学研究科博士後期課程への進学意向調査結果	12
資料5	自治体と産業界へのヒアリング調査・アンケート調査の結果	31
資料6	競合校の比較 <基礎となる学部と大学院の構成の関係>	37
資料7	競合校の入試志願動向(3カ年)	39
資料8	近年の研究科の入学定員充足状況	40
資料9	DX人材育成基盤プログラムニーズ調査(抜粋)	42
資料10	令和4年度の就職状況(概要)～学部及び博士前期課程～	43
資料11	博士後期課程の就職の状況(過去3年間)	44

# 資料1 リソースのカテゴリライズと構成



## 理工学研究科の構成



## 大分大学 大学院理工学研究科（博士前期・後期課程） （設置構想中）に関するアンケート調査

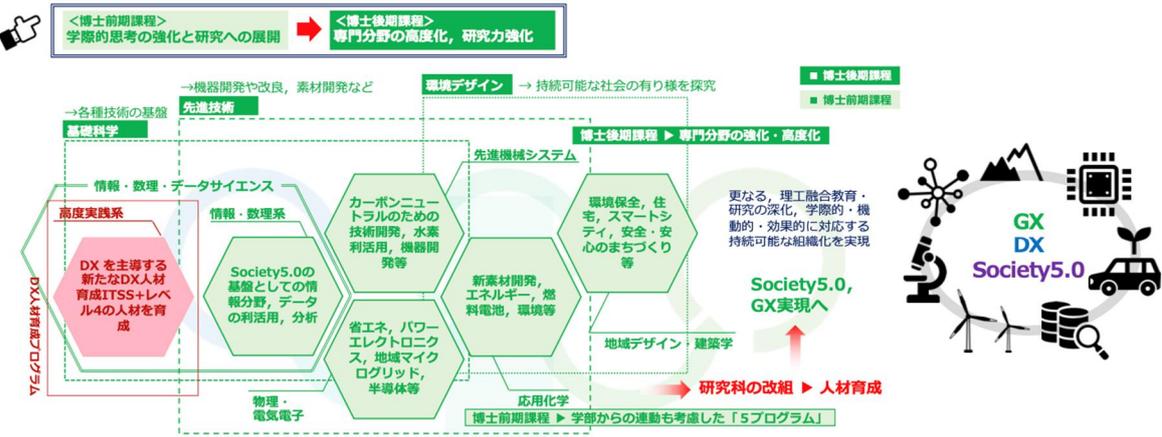


理工学部・工学部の学部生，博士前期課程の大学院生向けアンケート調査  
※学年により回答するアンケートが複数になります。次頁を参照ください。※

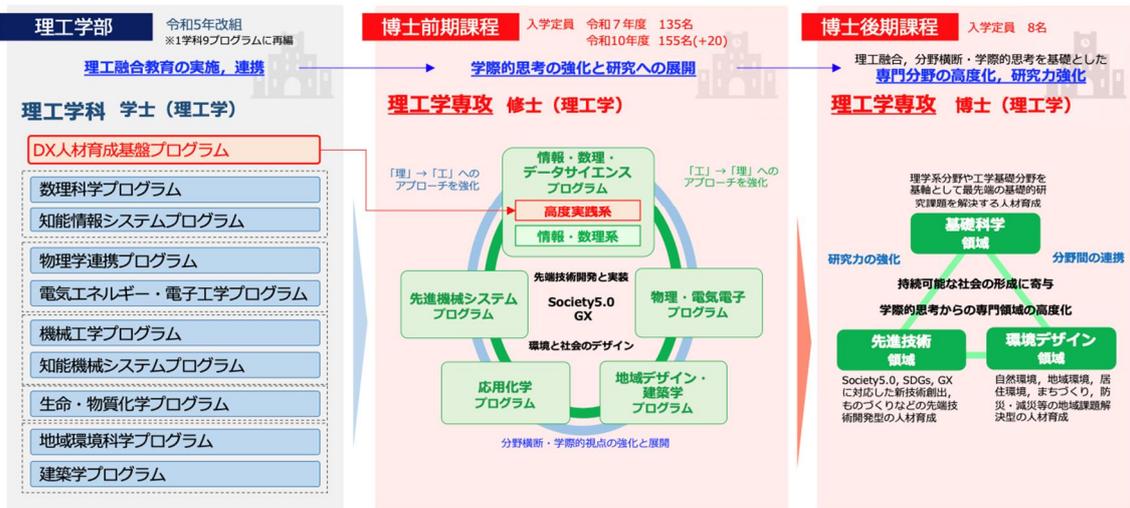
現在，大学院「工学研究科」の「理工学研究科」への改組（令和7年4月）を構想しています。理工学研究科ではこれまでの理工学部と工学研究科のリソースをベースとして，今日社会的に求められているGX，DX，そして実現すべき社会としてのイメージでもあるSociety5.0の具現化（図1）に寄与する，貢献しうる人材育成を目指すこととし，図2に示すような5つのカテゴリーにより博士前期課程を学部との連動を意識した「数理・情報データサイエンス（情報・数理系と高度実践系）」「先進機械システム」「物理・電気電子」「応用化学」「地域デザイン・建築学」の5プログラムに再編します。また博士後期課程では，それらのプログラムで得た能力を専門分野の観点からより強化・高度化するために，各種技術の基盤となる「基礎科学」，機器開発や改良，素材開発などにつながる「先進技術」，そして持続可能な社会の有り様を探究する「環境デザイン」の3領域で構成することとしています。国や大分県の動向として，前記にしたようなGXやDXに関する取り組みはもとより，先端技術の活用による産業の活性化，研究力の向上などが掲げられており，大学院改組の目指す方向は一致しています。また，熊本への世界的半導体企業の進出に代表される国際的な競争が激化することも考えられ，今後国内の企業における技術開発の面でも，この研究力は重要となってくることが想像に難くありません。

このようなことを前提として，大学院改組に関係するアンケートに回答をお願いいたします。アンケート対象は，工学研究科博士前期課程の大学院生と理工学部・工学部の学部生（1～4年生）になります。回答いただくアンケートは次頁を参考としてください。

### リソースのカテゴリライズ → 理工学研究科への改組



▲ 図1 研究科改組のコンセプト



▲ 図2 理工学研究科の構成

**【改組に関する情報】**

①学部学科等の名称

理工学研究科博士前期課程 理工学専攻 5プログラム | 理工学研究科博士後期課程 理工学専攻 3領域

※改組前後の研究科の関係（改組前学部含む）についてはアンケートフォームに図示していますので、参考にしてください。



②設置の理念、養成する人材像

**（理念）** 質の高い特色ある研究を通じて、不確実な時代においても世界に通用する科学技術を創造し、より良いかつ持続可能な社会と地域の形成に貢献すると共に、豊かな創造性、社会性及び人間性を備えた人材を養成する。

**（教育の目標）** 不確実性の高い社会における諸課題を探索する高い学習意欲と柔軟な思考力を有し、国際基準を満たす高度な専門知識を備えるとともに、学際領域に係る課題をグローバルな視点から複合・融合的に解決できる能力と資質、そして豊かな人間性と高い倫理観を有する人材を養成する。

<養成する人材像>

- 博士前期課程

★**情報・数理・データサイエンスプログラム（情報・数理系）**：基礎情報学、計算機工学、知識科学及び数理学の相互作用によって生まれる専門知識を基礎として社会の諸問題を解決するとともに、データサイエンスを活用できる能力を有する情報技術者、研究者、教育者

★**情報・数理・データサイエンスプログラム（高度実践系）\***：社会のデジタル変革に必要な実践的ITスキルを習得して、新しい付加価値の創造を主導し、非常事態においてはデジタルインフラの速やかな回復・復興に寄与できるDX専門人材

★**先進機械システムプログラム**：最先端の機械・エネルギー・制御・情報工学、あるいはメカトロニクス分野のより高度な知識と技術を習得し、高効率で環境負荷の低い機械の設計・開発や持続可能な社会を支える技術開発に貢献できる技術者、研究者

★**物理・電気電子プログラム**：物理学および電気エネルギー・電子工学をより高度かつ融合的に学び、広い視野と柔軟な思考力、探求力、活用力、研究・開発に携わる能力と課題解決能力を醸成し、持続可能なより良い社会を支える創造性と専門性を備えた技術者、研究者、教育者

★**応用化学プログラム**：基礎化学の知識と物質・材料化学及び生物化学の高度な専門知識と技術を、分野横断的に活用する能力を習得し、新規機能性材料開発、環境、エネルギーなどの諸課題解決に貢献できる技術者、研究者、教育者

★**地域デザイン・建築学プログラム**：地域環境・防災、自然科学、環境科学、あるいは建築計画・都市計画、建築環境・設備、建築構造、材料施工に関する高度な知識と技術を習得し、それらを分野横断的に活用できる技術者、研究者、教育者

\*「DX人材育成プログラム」の大学院におけるプログラム

- 博士後期課程

★**基礎科学領域**：理学系基礎科学分野や工学系技術分野を基軸として、数理学あるいは情報処理に関する高度な知識・技術を修得し、非経験あるいは経験に基づく考察と体系化によって、新しい理論の確立あるいは新しい理工学系基盤分野の創設に取り組み最先端の研究課題の解決に貢献できる技術者、研究者

★**先進技術領域**：機械、メカトロニクス、物理学、電気・電子、応用化学などの最先端の高度な知識・技術を修得し、これらを用いて新規で実用性に富む物質・材料の創成、システムやデバイスの開発および高機能・高性能化に取り組み、課題解決に貢献できる技術者、研究者

★**環境デザイン領域**：自然および都市を包括した地域循環共生圏における科学、生活環境および地域環境に関連する高度な知識・技術を修得し、地域循環共生圏における課題を見出し、その解決に取り組み、地域循環共生圏の発展に貢献できる技術者、研究者

③設置場所、アクセス 大分大学日野原キャンパス

④学生納付金 入学科：282,000円 | 授業料（年間）：535,800円（博士前期課程・後期課程共通）

⑤競合する大学院研究科の名称

富山大学大学院理工学研究科 愛媛大学大学院理工学研究科 鹿児島大学大学院 理工学研究科

回答いただくアンケート調査



アンケートはそれぞれ5～10分程度で終了します。ご協力をお願いします。なお、学部の1～3年生は博士前期・後期課程それぞれのニーズ調査にご回答ください。  
回答はGoogle Formで行いますが、大学発行のアカウントでログインする必要があります。

博士前期課程  
ニーズ調査



博士後期課程  
ニーズ調査



▶ 理工学部・工学部「1～3年生」向けアンケート

要回答

要回答

▶ 理工学部・工学部「4年生」向けアンケート

——

要回答

▶ 工学研究科博士前期課程「大学院生」向けアンケート

——

要回答

PDFから直接リンクを開く場合はこちらをクリック

[Google Form^](#)

[Google Form^](#)

### 資料3 理工学研究科博士前期課程への進学意向調査結果

#### 1) 調査概要

調査対象	: 理工学部・工学部 1～3 年生
対象学生数	: 1,204 名
回答数 (回答率)	: 816 名 (67.8%)
調査期間	: 令和 5 年 10 月 11 日 (水) ～ 26 日 (木)
回答回収方法	: Google Form を利用したアンケート

#### 2) 回答状況

回答項目	回答数	割合	対象者数	(回収率)
学部 3 年生	317		457	69.4%
学部 2 年生	311		393	79.1%
学部 1 年生	188		354	53.1%
合計	816		1,204	67.8%

#### 3) 学生確保の見通し等の把握に必要な項目の回答結果

※SA：単一回答， MA：複数回答

##### Q1 理工学部卒業後の進路をどのように考えますか (MA)

回答項目	回答数	割合
博士前期課程 (修士課程) に進学	405	49.6%
就職	411	50.4%
留学	14	1.7%
わからない・現時点ではイメージがわからない	186	22.8%
その他	0	0.0%
合計	1,016	

※ 割合 (総回答数N=816に対する割合)

##### Q2 大学院 (博士前期課程) に進学するとした場合、志望する大学等の設置者の希望を選択してください。(MA)

回答項目	回答数	割合
国立	816	100.0%
公立	140	17.2%
私立	21	2.6%
合計	977	

※ 割合 (総回答数N=816に対する割合)

Q3 大学院（博士前期課程）に進学するとした場合、その条件や促進要因で以下に該当するものがあれば選択してください。（MA）

回答項目	回答数	割合
特に条件などはなく、受験・進学の手続き	172	21.1%
経済的負担（入学料、授業料の減免、奨学金制度等）	304	37.3%
興味のある研究に取り組める環境（施設、スペース）	355	43.5%
自分の興味や取り組みたいことが明確であれば	358	43.9%
将来のスキルアップに繋がれば	298	36.5%
社会人入学が可能であれば（長期履修）	11	1.3%
就職のための支援制度があれば	144	17.6%
自分の希望する就職につながれば	287	35.2%
キャリア形成に役に立てば	146	17.9%
将来、大学や企業の研究職に就くことができれば	76	9.3%
指導教員が指導面で熱心であれば	42	5.1%
その他	2	0.2%
合計	2,195	

※ 割合（総回答数N=816に対する割合）

Q4 大学院（博士前期課程）に進学するとした場合、博士前期課程で獲得を期待する能力を以下より選択してください。（MA）

回答項目	回答数	割合
専門分野の高度な知識・技能	638	78.2%
分野横断、学際的な視点	150	18.4%
専門分野を基礎とした他領域への発展力、応用力	273	33.5%
課題発見力	227	27.8%
課題設定力	148	18.1%
課題解決力	272	33.3%
グローバルな視点	167	20.5%
研究成果等をグローバルに展開できる能力	86	10.5%
企画提案能力	134	16.4%
高度なプレゼンテーション能力・表現力	226	27.7%
高度なコミュニケーション能力と連携・協働力	194	23.8%
リーダーシップ	81	9.9%
自立して研究や取り組みを進めうる能力	183	22.4%
困難な課題にも挑戦する意欲	129	15.8%
専門分野を社会でどう活かせるかの視点	170	20.8%
イノベーションにつながる発想力、創造力	141	17.3%
スタートアップ、ベンチャー立ち上げに繋がれる能力	40	4.9%
その他	0	0.0%
合計	3,259	

※ 割合（総回答数N=816に対する割合）

Q5 (所属のコースやプログラム等に関わらず) 学びたいと考えている興味のある学問分野を選択してください。(MA)

回答項目	回答数	割合
数学	191	23.4%
物理学	175	21.4%
化学	131	16.1%
生物	71	8.7%
地学	40	4.9%
電気工学	197	24.1%
電気通信工学 ※「知能情報システム工学」はこちらを選択	208	25.5%
機械工学	203	24.9%
土木・建築工学	119	14.6%
応用化学	89	10.9%
医学	47	5.8%
薬学	63	7.7%
法学・政治学	21	2.6%
社会学	61	7.5%
教育学	36	4.4%
哲学	48	5.9%
文学	31	3.8%
史学	20	2.5%
その他 (心理学, 芸術, 音楽, マーケティングなど)	10	1.2%
合計	1,761	

※ 割合 (総回答数N=816に対する割合)

Q6 大分大学大学院理工学研究科博士前期課程が開設された場合、受験を希望しますか。一つ選択してください。(SA)

回答項目	回答数	割合
第1志望として受験する	337	41.3%
第2志望として受験する	168	20.6%
第3志望以降として受験する	76	9.3%
受験しない	235	28.8%
合計	816	

Q7 大分大学大学院理工学研究科博士前期課程を受験して合格した場合、入学を希望しますか。一つ選択してください。(SA)

回答項目	回答数	割合
入学する	359	44.0%
志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学	238	29.2%
入学しない	27	3.3%
合計	624	

※ 割合 (総回答数N=816に対する割合)

※回答者の選択ミスにより、Q6の受験する学生(581名)とQ7の入学想定(597名(359+238))の数値が一致していない。

(Q5～Q7に関するクロス集計)

▶ 志望順位種別 × 入学希望種別

志望順位種別	入学希望種別		合計
	入学する	志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学 入学しない (受験しない)	
第1志望として受験する	308	28	337
第2志望として受験する	29	137	168
第3志望以降として受験する	9	64	76
受験しない	13	9	235
合計	359	238	816

全体の **70.5%** が博士前期課程（修士課程）の進学を検討  
 そのうちの **37.7%** が「第1志望として受験」かつ「入学する」と回答（308件の回答）

▶ 学びたい専門分野（該当有無） × 志望順位種別

学びたい専門分野	志望順位種別（「受験しない」は除く）			合計
	第1志望として受験する	第2志望として受験する	第3志望以降として受験する	
設置する研究科に専門分野の該当あり	329	162	71	562
設置する研究科に専門分野の該当なし	8	6	5	19
合計	337	168	76	581

受験を検討している回答者の **96.7%** において、回答者の学びたい領域と設置構想中の領域が一致

▶ 学びたい専門分野（該当有） × 「入学する」かつ「第1希望として受験」

学びたい専門分野	入学希望種別 + 受験希望種別		合計
	「入学する」かつ「第1希望として受験」	それ以外	
設置する研究科に専門分野の該当あり	301	472	773
設置する研究科に専門分野の該当なし	7	36	43
合計	308	508	816

「第1志望として受験」かつ「入学する」回答者の **97.7%** において、回答者の学びたい領域と設置構想中の領域が一致

4) 独自に設定した設問項目への回答結果

Q8 理工学研究科への改組の構想や「博士前期課程」について関心がありますか。(SA)

回答項目	回答数	割合
とても関心がある	129	15.8%
関心がある	383	46.9%
あまり関心がない	255	31.3%
全く関心がない	49	6.0%
合計	816	

Q9 この改組による大学院（博士前期課程）へ進学をしたいと思いますか。(SA)

回答項目	回答数	割合
進学したい	149	18.3%
進学を検討中（今は決めていないが進路の選択肢として検討中も含む）	441	54.0%
進学予定なし	226	27.7%
合計	816	

Q10 大学院（博士前期課程）に進学するとした場合、進学を希望するプログラムは以下のうちのプログラムですか。(SA)

回答項目	回答数	割合
情報・数理・データサイエンスプログラム（情報・数理系）	160	19.6%
情報・数理・データサイエンスプログラム（高度実践系）	84	10.3%
先進機械システムプログラム	185	22.7%
物理・電気電子プログラム	141	17.3%
応用化学プログラム	126	15.4%
地域デザイン・建築学プログラム	120	14.7%
合計	816	

Q11 大学院（博士前期課程）を修了したと想定した場合、どのような進路に進みたいと思いますか。(MA)

回答項目	回答数	割合
企業の技術者，専門職	559	68.5%
企業の研究者	265	32.5%
起業	53	6.5%
公務員	146	17.9%
大学の研究者	44	5.4%
大学院（博士後期課程）への進学	72	8.8%
まだわからない・考えていない	189	23.2%
その他（企画，高校教員，海外事業部の勤務など）	6	0.7%
合計	1,334	

※ 割合（総回答数N=816に対する割合）

Q12 今後、我が国の研究力の強化や国際的な競争力を向上させるためにも、あなたの学ぶ分野や専門分野において、修士の学位は重要になると感じますか。(SA)

回答項目	回答数	割合
かなり重要となる	231	28.3%
重要となる	484	59.3%
あまり重要とはならない	90	11.0%
全く重要ではない	11	1.3%
合計	816	

(現在の学部の所属コースまたはプログラムと進学意向のクロス集計)

1 理工学部卒業後の進路をどのように考えますか。※複数選択可 (MA)

所属コースまたはプログラム	博士前期課程 (修士課程) に進学		就職		留学		わからない・現時点ではイメージがわからない		その他		各コース・プログラム回答人数
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	
2 3 年生	理工学部創生工学科 機械コース	51	52.6%	50	51.5%	4	4.1%	18	18.6%		97
	理工学部創生工学科 電気電子コース	60	48.8%	70	56.9%	1	0.8%	27	22.0%		123
	理工学部創生工学科 建築学コース	32	39.0%	50	61.0%	2	2.4%	12	14.6%		82
	理工学部創生工学科 福祉メカトロニクスコース	32	76.2%	11	26.2%			7	16.7%		42
	理工学部共創理工学科 数理科学コース	10	34.5%	17	58.6%			5	17.2%		29
	理工学部共創理工学科 知能情報システムコース	42	32.1%	81	61.8%	3	2.3%	32	24.4%		131
	理工学部共創理工学科 自然科学コース	13	54.2%	15	62.5%	1	4.2%	6	25.0%		24
	理工学部共創理工学科 応用化学コース	63	62.4%	51	50.5%	2	2.0%	20	19.8%		101
1 年生	理工学部理工学科 数理科学プログラム	6	85.7%	1	14.3%			1	14.3%		7
	理工学部理工学科 知能情報システムプログラム	12	44.4%	11	40.7%			9	33.3%		27
	理工学部理工学科 物理学連携プログラム	1	25.0%	2	50.0%	1	25.0%	2	50.0%		4
	理工学部理工学科 電気エネルギー・電子工学プログラム	14	51.9%	9	33.3%			8	29.6%		27
	理工学部理工学科 機械工学プログラム	27	61.4%	15	34.1%			14	31.8%		44
	理工学部理工学科 知能機械システムプログラム	15	62.5%	6	25.0%			7	29.2%		24
	理工学部理工学科 生命・物質化学プログラム	10	66.7%	9	60.0%			2	13.3%		15
	理工学部理工学科 地域環境科学プログラム	4	30.8%	5	38.5%			7	53.8%		13
	理工学部理工学科 建築学プログラム	7	53.8%	4	30.8%			4	30.8%		13
	工学部 (学科に関わらずこれを選択してください)	6	46.2%	4	30.8%			5	38.5%		13
合計	405		411		14		186		0	816	

(定員充足の推計)

▼ 学年別の「進学を想定」とする学生数

学年	博士前期課程 の入学年	アンケート回答者の 合計	回答割合	「進学を想定」 とする学生数
学部 1年生	R9年度入学	188	54.3%	102
学部 2年生	R8年度入学	311	54.7%	170
学部 3年生	R7年度入学	317	42.0%	133
合計		816		405

▼ 学年別の回答割合をもとに、在籍者数から「進学を想定」とする学生数を推計

学年	博士前期課程 の入学年	在籍者数 (S)	回答割合 (R)	「進学を想定」とする 学生数 (推計) S × R
学部 1年生	R9年度入学	354	54.3%	192
学部 2年生	R8年度入学	393	54.7%	215
学部 3年生	R7年度入学	457	42.0%	192
合計		1,204		599

## 資料4 理工学研究科博士後期課程への進学意向調査結果

### 1) 調査概要

工学研究科から理工学研究科への改組について、以下のとおり本学学部生へのアンケート調査を実施した。

調査対象	: 理工学部・工学部1～4年生, 工学研究科博士前期課程
対象学生数	: 1,859名
回答数(回答率)	: 1,056名(56.8%)
調査期間	: 令和5年10月11日(水)～20日(金)
回答回収方法	: Google Formを利用したアンケート

### 2) 回答状況

回答項目	回答数	割合	対象者数	(回収率)
博士前期課程 2年次	70		141	49.6%
博士前期課程 1年次	132		149	88.6%
学部 4年生	179		361	49.6%
学部 3年生	268		457	58.6%
学部 2年生	252		397	63.5%
学部 1年生	155		354	43.8%
合計	1,056		1,859	56.8%

### 3) 学生確保の見通し等の把握に必要な項目の回答結果

※SA: 単一回答, MA: 複数回答

#### Q1 大学院(博士前期課程)修了後の進路をどのように考えますか。(MA)

回答項目	回答数	割合
博士後期課程(博士課程)に進学	168	 15.9%
就職	802	 75.9%
留学	23	 2.2%
わからない・現時点ではイメージがわからない	207	 19.6%
その他	4	 0.4%
合計	1,204	

※ 割合(総回答数N=1,056に対する割合)

#### Q2 大学院(博士後期課程)に進学するとした場合、志望する大学等の設置者の希望を選択してください。(MA)

回答項目	回答数	割合
国立	1,056	 100.0%
公立	159	 15.1%
私立	26	 2.5%
合計	1,241	

※ 割合(総回答数N=1,056に対する割合)

Q3 大学院（博士後期課程）に進学するとした場合、その条件や促進要因で以下に該当するものがあれば選択してください。(MA)

回答項目	回答数	割合
特に条件ではなく、受験・進学の手続き	155	14.7%
経済的負担（入学料、授業料の減免、奨学金制度等）	456	43.2%
興味のある研究に取り組める環境（施設、スペース）	471	44.6%
自分の興味や取り組みたいことが明確であれば	510	48.3%
将来のスキルアップに繋がれば	361	34.2%
社会人入学が可能であれば（長期履修）	56	5.3%
就職のための支援制度があれば	220	20.8%
自分の希望する就職につながれば	345	32.7%
キャリア形成に役に立てば	176	16.7%
将来、大学や企業の研究職に就くことができれば	133	12.6%
指導教員が指導面で熱心であれば	59	5.6%
その他	2	0.2%
合計	2,944	

※ 割合（総回答数N=1,056に対する割合）

Q4 大学院（博士後期課程）に進学するとした場合、博士後期課程で獲得を期待する能力を以下より選択してください。(MA)

回答項目	回答数	割合
専門分野の高度な知識・技能	832	78.8%
分野横断、学際的な視点	255	24.1%
専門分野を基礎とした他領域への発展力、応用力	376	35.6%
課題発見力	316	29.9%
課題設定力	227	21.5%
課題解決力	384	36.4%
グローバルな視点	230	21.8%
研究成果等をグローバルに展開できる能力	169	16.0%
企画提案能力	173	16.4%
高度なプレゼンテーション能力・表現力	332	31.4%
高度なコミュニケーション能力と連携・協働力	257	24.3%
リーダーシップ	133	12.6%
自立して研究や取り組みを進めうる能力	268	25.4%
困難な課題にも挑戦する意欲	198	18.8%
専門分野を社会でどう活かせるかの視点	222	21.0%
イノベーションにつながる発想力、創造力	160	15.2%
スタートアップ、ベンチャー立ち上げに繋がれる能力	68	6.4%
その他	0	0.0%
合計	4,600	

※ 割合（総回答数N=1,056に対する割合）

Q5 (所属のコースやプログラム等に関わらず) 学びたいと考えている興味のある学問分野を選択してください。(MA)

回答項目	回答数	割合
数学	220	20.8%
物理学	200	18.9%
化学	190	18.0%
生物	103	9.8%
地学	59	5.6%
電気工学	260	24.6%
電気通信工学 ※「知能情報システム工学」はこちらを選択	299	28.3%
機械工学	270	25.6%
土木・建築工学	170	16.1%
応用化学	124	11.7%
医学	73	6.9%
薬学	37	3.5%
法学・政治学	89	8.4%
社会学	51	4.8%
教育学	44	4.2%
哲学	73	6.9%
文学	41	3.9%
史学	35	3.3%
その他 (心理学, デザイン工学, 医用工学など)	14	1.3%
合計	2,352	

※ 割合 (総回答数N=1,056に対する割合)

Q6 大分大学大学院理工学研究科博士後期課程が開設された場合, 受験を希望しますか。一つ選択してください。(SA)

回答項目	回答数	割合
第1志望として受験する	260	24.6%
第2志望として受験する	149	14.1%
第3志望以降として受験する	58	5.5%
受験しない	589	55.8%
合計	1,056	

Q7 大分大学大学院理工学研究科博士後期課程を受験して合格した場合, 入学を希望しますか。一つ選択してください。(SA)

回答項目	回答数	割合
入学する	272	25.8%
志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学	209	19.8%
入学しない	54	5.1%
合計	535	

※ 割合 (総回答数N=1,056に対する割合)

### 【各学年別のクロス集計】

※博士後期課程については、定員充足が近年厳しい状況が続いているため、学年別（入学年度）のクロス集計を行い、課題を把握する。

#### Q1 大学院（博士前期課程）修了後の進路をどのように考えますか。（MA）

学年 (博士後期課程への 入学年度)		博士後期課程 (博士課程) に進学	就職	留学	わからない・現時点 ではイメージがわかない	その他	※各学年の 回答数
博士前期課程 2年次	回答数	1	69	1	1		70
	割合	1.4%	98.6%	1.4%	1.4%		
博士前期課程 1年次 (R7年度入学)	回答数	4	125	2	3		132
	割合	3.0%	94.7%	1.5%	2.3%		
学部 4年生 (R8年度入学)	回答数	13	165	5	7		179
	割合	7.3%	92.2%	2.8%	3.9%		
学部 3年生 (R9年度入学)	回答数	42	203	6	57		268
	割合	15.7%	75.7%	2.2%	21.3%		
学部 2年生 (R10年度入学)	回答数	64	165	7	77		252
	割合	25.4%	65.5%	2.8%	30.6%		
学部 1年生 (R11年度入学)	回答数	44	75	2	62		155
	割合	28.4%	48.4%	1.3%	40.0%		
合計	回答数	168	802	23	207		1,056
	割合	15.9%	75.9%	2.2%	19.6%		

※割合（各学年の回答数に対する割合）

#### Q2 大学院（博士後期課程）に進学するとした場合、志望する大学等の設置者の希望を選択してください。（MA）

学年 (博士後期課程への 入学年度)		国立	公立	私立	※各学年の 回答数
博士前期課程 2年次	回答数	70	5	1	70
	割合	100.0%	7.1%	1.4%	
博士前期課程 1年次 (R7年度入学)	回答数	132	7	2	132
	割合	100.0%	5.3%	1.5%	
学部 4年生 (R8年度入学)	回答数	179	26	4	179
	割合	100.0%	14.5%	2.2%	
学部 3年生 (R9年度入学)	回答数	268	37	5	268
	割合	100.0%	13.8%	1.9%	
学部 2年生 (R10年度入学)	回答数	252	60	8	252
	割合	100.0%	23.8%	3.2%	
学部 1年生 (R11年度入学)	回答数	155	24	6	155
	割合	100.0%	15.5%	3.9%	
合計	回答数	1,056	159	26	1,056
	割合	100.0%	15.1%	2.5%	

※割合（各学年の回答数に対する割合）

(Q1 において「博士後期課程（博士課程）に進学」と回答した回答者のみでクロス集計)

学年 (博士後期課程への 入学年度)		国立	公立	私立	※各学年の 進学を想定 している 回答数
博士前期課程 2年次	回答数	1	1		1
	割合	100.0%	100.0%		
博士前期課程 1年次 (R7年度入学)	回答数	4			4
	割合	100.0%			
学部 4年生 (R8年度入学)	回答数	13	2	1	13
	割合	100.0%	15.4%	7.7%	
学部 3年生 (R9年度入学)	回答数	42	12	2	42
	割合	100.0%	28.6%	4.8%	
学部 2年生 (R10年度入学)	回答数	64	21	4	64
	割合	100.0%	32.8%	6.3%	
学部 1年生 (R11年度入学)	回答数	44	6	2	44
	割合	100.0%	13.6%	4.5%	
合計	回答数	168	42	9	168
	割合	100.0%	25.0%	5.4%	

※割合（各学年の回答数に対する割合）

Q3 大学院（博士前期課程）に進学するとした場合、その条件や促進要因で以下に該当するものがあれば選択してください。（MA）

学年 (博士後期課程への 入学年度)	特に条件な どはなく、 博士後期課 程を受験 (進学)の 予定	経済的支援 (入学料、 授業料の減 免、奨学金 制度、RA 等)	興味のある 研究に取り 組める環境 (施設、ス ペース)	自分の興味 や取り組み たいことが 明確であれ ば	将来のスキル アップに 繋がられ ば	社会人入学 が可能であ れば(長期 履修)	就職のため の支援制度 があれば	自分の希望 する就職に つながれば	キャリア形 成に役に立 てば	将来、大学 や企業の研 究職に就く ことができ れば	指導教員が 指導面で熱 心であれば	その他	※各学年の 回答数
博士前期課程 2年次	3	43	32	36	22	6	13	20	11	8	6		70
	4.3%	61.4%	45.7%	51.4%	31.4%	8.6%	18.6%	28.6%	15.7%	11.4%	8.6%		
博士前期課程 1年次 (R7年度入学)	16	69	60	60	50	14	41	43	19	24	10	1	132
	12.1%	52.3%	45.5%	45.5%	37.9%	10.6%	31.1%	32.6%	14.4%	18.2%	7.6%	0.8%	
学部 4年生 (R8年度入学)	17	94	92	87	62	13	44	61	30	25	12		179
	9.5%	52.5%	51.4%	48.6%	34.6%	7.3%	24.6%	34.1%	16.8%	14.0%	6.7%		
学部 3年生 (R9年度入学)	49	105	103	133	82	11	48	88	37	23	17		268
	18.3%	39.2%	38.4%	49.6%	30.6%	4.1%	17.9%	32.8%	13.8%	8.6%	6.3%		
学部 2年生 (R10年度入学)	38	96	122	128	92	8	43	81	49	31	9	1	252
	15.1%	38.1%	48.4%	50.8%	36.5%	3.2%	17.1%	32.1%	19.4%	12.3%	3.6%	0.4%	
学部 1年生 (R11年度入学)	32	49	62	66	53	4	31	52	30	22	5		155
	20.6%	31.6%	40.0%	42.6%	34.2%	2.6%	20.0%	33.5%	19.4%	14.2%	3.2%		
合計	155	456	471	510	361	56	220	345	176	133	59	2	1,056
	14.7%	43.2%	44.6%	48.3%	34.2%	5.3%	20.8%	32.7%	16.7%	12.6%	5.6%	0.2%	

※割合（各学年の回答数に対する割合）

(Q1)において「博士後期課程（博士課程）に進学」と回答した回答者のみでクロス集計）

学年 (博士後期課程への 入学年度)	特に条件な どはなく、 博士後期課 程を受験 (進学)の 予定	経済的支援 (入学料、 授業料の減 免、奨学金 制度、RA 等)	興味のある 研究に取り 組める環境 (施設、ス ペース)	自分の興味 や取り組み たいことが 明確であれ ば	将来のスキル アップに 繋がられ ば	社会人入学 が可能であ れば(長期 履修)	就職のため の支援制度 があれば	自分の希望 する就職に つながれば	キャリア形 成に役に立 てば	将来、大学 や企業の研 究職に就く ことができ れば	指導教員が 指導面で熱 心であれば	その他	※各学年の 進学を想定 している 回答数
博士前期課程 2年次	1	1	1									1	1
	100.0%	100.0%	100.0%									100.0%	
博士前期課程 1年次 (R7年度入学)	2	4	2	4	2		1	2	1	2	3		4
	50.0%	100.0%	50.0%	100.0%	50.0%		25.0%	50.0%	25.0%	50.0%	75.0%		
学部 4年生 (R8年度入学)	1	6	7	3	6	2	1	2	2	4			13
	7.7%	46.2%	53.8%	23.1%	46.2%	15.4%	7.7%	15.4%	15.4%	30.8%			
学部 3年生 (R9年度入学)	13	16	17	22	13	2	6	11	2	4	4		42
	31.0%	38.1%	40.5%	52.4%	31.0%	4.8%	14.3%	26.2%	4.8%	9.5%	9.5%		
学部 2年生 (R10年度入学)	18	30	39	34	21	3	13	27	21	9	2		64
	28.1%	46.9%	60.9%	53.1%	32.8%	4.7%	20.3%	42.2%	32.8%	14.1%	3.1%		
学部 1年生 (R11年度入学)	14	9	24	19	18	2	7	16	11	9	4		44
	31.8%	20.5%	54.5%	43.2%	40.9%	4.5%	15.9%	36.4%	25.0%	20.5%	9.1%		
合計	48	66	90	83	60	9	28	58	37	28	14		168
	28.6%	39.3%	53.6%	49.4%	35.7%	5.4%	16.7%	34.5%	22.0%	16.7%	8.3%		

※割合（各学年の回答数に対する割合）

Q4 大学院（博士後期課程）に進学するとした場合、博士後期課程で獲得を期待する能力を以下より選択してください。（MA）

学年 (博士後期課程への 入学年度)		専門分野の 高度な知 識・技能	分野横断、 学際的な視 点	専門分野を 基礎とした 他領域への 発展力、応 用力		課題発見力	課題設定力	課題解決力	グローバリ な視点	研究成果等 をグローバ ルに展開で きる能力	企画提案能 力	高度なブレ ンダー センター シオン能 力・表現力	高度なコ ミュニケ ーション能 力と連携・協 働力	リーダ シップ	自立して研 究や取り組 みを進めう る能力	困難な課題 にも挑戦す る意欲	専門分野を 社会でどう 活かせるか の視点	イノベ ーションにつ ながる発想 力、創造力	スタート アップ、ベン チャー立 ち上げに繋 げられる能 力	その他	※各学年の 回答数
				25	26																
博士前期課程 2年次	回答数	61	24	25	26	19	31	14	9	13	22	11	12	24	11	11	11	11	1	70	
	割合	87.1%	34.3%	35.7%	37.1%	27.1%	44.3%	20.0%	12.9%	18.6%	31.4%	15.7%	17.1%	34.3%	15.7%	15.7%	15.7%	15.7%	1.4%		
博士前期課程 1年次 (R7年度入学)	回答数	113	36	59	46	31	49	27	25	17	48	27	18	36	24	24	19	10	132		
	割合	85.6%	27.3%	44.7%	34.8%	23.5%	37.1%	20.5%	18.9%	12.9%	36.4%	20.5%	13.6%	27.3%	18.2%	18.2%	14.4%	7.6%			
学部 4年生 (R8年度入学)	回答数	148	46	60	61	42	82	38	22	24	62	45	20	59	35	44	20	12	179		
	割合	82.7%	25.7%	33.5%	34.1%	23.5%	45.8%	21.2%	12.3%	13.4%	34.6%	25.1%	11.2%	33.0%	19.6%	24.6%	11.2%	6.7%			
学部 3年生 (R9年度入学)	回答数	193	56	80	84	58	93	55	48	40	91	73	29	59	47	62	41	14	268		
	割合	72.0%	20.9%	29.9%	31.3%	21.6%	34.7%	20.5%	17.9%	14.9%	34.0%	27.2%	10.8%	22.0%	17.5%	23.1%	15.3%	5.2%			
学部 2年生 (R10年度入学)	回答数	202	62	103	56	44	72	64	43	49	62	57	34	57	53	56	47	21	252		
	割合	80.2%	24.6%	40.9%	22.2%	17.5%	28.6%	25.4%	17.1%	19.4%	24.6%	22.6%	13.5%	22.6%	21.0%	22.2%	18.7%	8.3%			
学部 1年生 (R11年度入学)	回答数	115	31	49	43	33	57	32	22	30	47	44	20	33	28	25	22	10	155		
	割合	74.2%	20.0%	31.6%	27.7%	21.3%	36.8%	20.6%	14.2%	19.4%	30.3%	28.4%	12.9%	21.3%	18.1%	16.1%	14.2%	6.5%			
合計	回答数	832	255	376	316	227	384	230	169	173	332	257	133	268	198	222	160	68	1,056		
	割合	78.8%	24.1%	35.6%	29.9%	21.5%	36.4%	21.8%	16.0%	16.4%	31.4%	24.3%	12.6%	25.4%	18.8%	21.0%	15.2%	6.4%			

※割合（各学年の回答数に対する割合）

（Q1において「博士後期課程（博士課程）に進学」と回答した回答者のみでクロス集計）

学年 (博士後期課程への 入学年度)		専門分野の 高度な知 識・技能	分野横断、 学際的な視 点	専門分野を 基礎とした 他領域への 発展力、応 用力		課題発見力	課題設定力	課題解決力	グローバリ な視点	研究成果等 をグローバ ルに展開で きる能力	企画提案能 力	高度なブレ ンダー センター シオン能 力・表現力	高度なコ ミュニケ ーション能 力と連携・協 働力	リーダ シップ	自立して研 究や取り組 みを進めう る能力	困難な課題 にも挑戦す る意欲	専門分野を 社会でどう 活かせるか の視点	イノベ ーションにつ ながる発想 力、創造力	スタート アップ、ベン チャー立 ち上げに繋 げられる能 力	その他	※各学年の 進学を想定 している 回答数
				1	1																
博士前期課程 2年次	回答数					1		1													1
	割合					100.0%		100.0%													
博士前期課程 1年次 (R7年度入学)	回答数	4	2	4	3	2	2	1	2	2	1	2	3	1	2	2	3	1		4	
	割合	100.0%	50.0%	100.0%	75.0%	50.0%	50.0%	25.0%	50.0%	50.0%	50.0%	50.0%	75.0%	25.0%	50.0%	50.0%	75.0%	25.0%			
学部 4年生 (R8年度入学)	回答数	11	3	2	1	1	4	2			2	5	2		5	3	3		13		
	割合	84.6%	23.1%	15.4%	7.7%	7.7%	30.8%	15.4%			15.4%	38.5%	15.4%		38.5%	23.1%	23.1%				
学部 3年生 (R9年度入学)	回答数	32	13	16	12	10	15	12	9	12	16	10	6	12	9	15	7	2	42		
	割合	76.2%	31.0%	38.1%	28.6%	23.8%	35.7%	28.6%	21.4%	28.6%	38.1%	23.8%	14.3%	28.6%	21.4%	35.7%	16.7%	4.8%			
学部 2年生 (R10年度入学)	回答数	53	22	33	19	15	22	16	13	17	20	17	10	14	19	14	16	6	64		
	割合	82.8%	34.4%	51.6%	29.7%	23.4%	34.4%	25.0%	20.3%	26.6%	31.3%	26.6%	15.6%	21.9%	29.7%	21.9%	25.0%	9.4%			
学部 1年生 (R11年度入学)	回答数	33	9	12	16	11	22	9	7	8	13	14	8	14	12	10	9	5	44		
	割合	75.0%	20.5%	27.3%	36.4%	25.0%	50.0%	20.5%	15.9%	18.2%	29.5%	31.8%	18.2%	31.8%	27.3%	22.7%	20.5%	11.4%			
合計	回答数	133	49	67	51	40	66	40	31	40	56	46	25	47	45	45	33	13	168		
	割合	79.2%	29.2%	39.9%	30.4%	23.8%	39.3%	23.8%	18.5%	23.8%	33.3%	27.4%	14.9%	28.0%	26.8%	26.8%	19.6%	7.7%			

※割合（各学年の回答数に対する割合）

Q5 (所属のコースやプログラム等に関わらず) 学びたいと考えている興味のある学問分野を選択してください。(MA)

※ここでは理工学系の分野とのクロス集計のみを実施

学年 (博士後期課程への 入学年度)		数学	物理学	化学	生物	地学	電気工学	電気通信工 学	機械工学	土木・建築 工学	応用化学	※各学年の 回答数
博士前期課程 2年次	回答数	13	19	18	11	3	17	18	23	13	11	70
	割合	18.6%	27.1%	25.7%	15.7%	4.3%	24.3%	25.7%	32.9%	18.6%	15.7%	
博士前期課程 1年次 (R7年度入学)	回答数	15	27	23	16	11	41	38	47	23	14	132
	割合	11.4%	20.5%	17.4%	12.1%	8.3%	31.1%	28.8%	35.6%	17.4%	10.6%	
学部 4年生 (R8年度入学)	回答数	36	29	37	18	14	40	54	44	38	15	179
	割合	20.1%	16.2%	20.7%	10.1%	7.8%	22.3%	30.2%	24.6%	21.2%	8.4%	
学部 3年生 (R9年度入学)	回答数	54	42	53	32	12	56	71	58	34	39	268
	割合	20.1%	15.7%	19.8%	11.9%	4.5%	20.9%	26.5%	21.6%	12.7%	14.6%	
学部 2年生 (R10年度入学)	回答数	57	47	42	19	13	66	76	45	40	33	252
	割合	22.6%	18.7%	16.7%	7.5%	5.2%	26.2%	30.2%	17.9%	15.9%	13.1%	
学部 1年生 (R11年度入学)	回答数	45	36	17	7	6	40	42	53	22	12	155
	割合	29.0%	23.2%	11.0%	4.5%	3.9%	25.8%	27.1%	34.2%	14.2%	7.7%	
合計	回答数	220	200	190	103	59	260	299	270	170	124	1,056
	割合	20.8%	18.9%	18.0%	9.8%	5.6%	24.6%	28.3%	25.6%	16.1%	11.7%	

※割合 (各学年の回答数に対する割合)

(Q1 において「博士後期課程 (博士課程) に進学」と回答した回答者のみでクロス集計)

学年 (博士後期課程への 入学年度)		数学	物理学	化学	生物	地学	電気工学	電気通信工 学	機械工学	土木・建築 工学	応用化学	※各学年の 進学を想定 している 回答数
博士前期課程 2年次	回答数		1	1							1	1
	割合		100.0%	100.0%							100.0%	
博士前期課程 1年次 (R7年度入学)	回答数	2	2	3	2		2					4
	割合	50.0%	50.0%	75.0%	50.0%		50.0%					
学部 4年生 (R8年度入学)	回答数	2	1	3	1		4	1	5	2	2	13
	割合	15.4%	7.7%	23.1%	7.7%		30.8%	7.7%	38.5%	15.4%	15.4%	
学部 3年生 (R9年度入学)	回答数	9	8	7	9	2	8	14	15	4	7	42
	割合	21.4%	19.0%	16.7%	21.4%	4.8%	19.0%	33.3%	35.7%	9.5%	16.7%	
学部 2年生 (R10年度入学)	回答数	15	18	10	6	3	18	21	17	11	6	64
	割合	23.4%	28.1%	15.6%	9.4%	4.7%	28.1%	32.8%	26.6%	17.2%	9.4%	
学部 1年生 (R11年度入学)	回答数	24	15	7	2	3	13	12	12	6	4	44
	割合	54.5%	34.1%	15.9%	4.5%	6.8%	29.5%	27.3%	27.3%	13.6%	9.1%	
合計	回答数	52	45	31	20	8	45	48	49	23	20	168
	割合	31.0%	26.8%	18.5%	11.9%	4.8%	26.8%	28.6%	29.2%	13.7%	11.9%	

※割合 (各学年の回答数に対する割合)

Q6 大分大学大学院理工学研究科博士後期課程が開設された場合、受験を希望しますか。一つ選択してください。(SA)

学年 (博士後期課程への 入学年度)		第1志望と して受験す る	第2志望と して受験す る	第3志望以 降として受 験する	受験しない	※各学年の 回答数
博士前期課程 2年次	回答数 割合	18 25.7%	4 5.7%	1 1.4%	47 67.1%	70
博士前期課程 1年次 (R7年度入学)	回答数 割合	32 24.2%	13 9.8%	1 0.8%	86 65.2%	132
学部 4年生 (R8年度入学)	回答数 割合	28 15.6%	18 10.1%	2 1.1%	131 73.2%	179
学部 3年生 (R9年度入学)	回答数 割合	56 20.9%	30 11.2%	16 6.0%	166 61.9%	268
学部 2年生 (R10年度入学)	回答数 割合	69 27.4%	50 19.8%	23 9.1%	110 43.7%	252
学部 1年生 (R11年度入学)	回答数 割合	57 36.8%	34 21.9%	15 9.7%	49 31.6%	155
合計	回答数 割合	260 24.6%	149 14.1%	58 5.5%	589 55.8%	1,056

※割合（各学年の回答数に対する割合）

(Q1において「博士後期課程（博士課程）に進学」と回答した回答者のみでクロス集計）

学年 (博士後期課程への 入学年度)		第1志望と して受験す る	第2志望と して受験す る	第3志望以 降として受 験する	受験しない	※各学年の 進学を想定 している 回答数
博士前期課程 2年次	回答数 割合	1 100.0%				1
博士前期課程 1年次 (R7年度入学)	回答数 割合	2 50.0%	2 50.0%			4
学部 4年生 (R8年度入学)	回答数 割合	6 46.2%	2 15.4%		5 38.5%	13
学部 3年生 (R9年度入学)	回答数 割合	16 38.1%	11 26.2%	4 9.5%	11 26.2%	42
学部 2年生 (R10年度入学)	回答数 割合	27 42.2%	22 34.4%	6 9.4%	9 14.1%	64
学部 1年生 (R11年度入学)	回答数 割合	26 59.1%	10 22.7%	6 13.6%	2 4.5%	44
合計	回答数 割合	78 46.4%	47 28.0%	16 9.5%	27 16.1%	168

※割合（各学年の回答数に対する割合）

Q7 大分大学大学院理工学研究科博士後期課程を受験して合格した場合、入学を希望しますか。  
一つ選択してください。(SA)

学年 (博士後期課程への 入学年度)		入学する	志望順位が 上位の他の 志望校が不 合格の場合 に入学	入学しない	前の問いで 「受験しな い」を選択	※各学年の 回答数
博士前期課程 2年次	回答数 割合	19 27.1%	5 7.1%	3 4.3%	43 61.4%	70
博士前期課程 1年次 (R7年度入学)	回答数 割合	34 25.8%	15 11.4%	5 3.8%	78 59.1%	132
学部 4年生 (R8年度入学)	回答数 割合	32 17.9%	20 11.2%	11 6.1%	116 64.8%	179
学部 3年生 (R9年度入学)	回答数 割合	56 20.9%	48 17.9%	24 9.0%	140 52.2%	268
学部 2年生 (R10年度入学)	回答数 割合	73 29.0%	73 29.0%	4 1.6%	102 40.5%	252
学部 1年生 (R11年度入学)	回答数 割合	58 37.4%	48 31.0%	7 4.5%	42 27.1%	155
合計	回答数 割合	272 25.8%	209 19.8%	54 5.1%	521 49.3%	1,056

※割合（各学年の回答数に対する割合）

(Q1 において「博士後期課程（博士課程）に進学」と回答した回答者のみでクロス集計)

学年 (入学年度)		入学する	志望順位が 上位の他の 志望校が不 合格の場合 に入学	入学しない	前の問いで 「受験しな い」を選択	※各学年の 進学を想定 している 回答数
博士前期課程 2年次	回答数 割合	1 100.0%				1
博士前期課程 1年次 (R7年度入学)	回答数 割合	2 50.0%	2 50.0%			4
学部 4年生 (R8年度入学)	回答数 割合	6 46.2%	3 23.1%	3 23.1%	3 23.1%	13
学部 3年生 (R9年度入学)	回答数 割合	16 38.1%	15 35.7%	11 26.2%	11 26.2%	42
学部 2年生 (R10年度入学)	回答数 割合	27 42.2%	28 43.8%	9 14.1%	9 14.1%	64
学部 1年生 (R11年度入学)	回答数 割合	26 59.1%	16 36.4%	2 4.5%	2 4.5%	44
合計	回答数 割合	78 46.4%	64 38.1%	25 14.9%	25 14.9%	168

※割合（各学年の回答数に対する割合）

※回答者の回答ミスにより、一部回答数が多くなっている。

(Q5～Q7に関するクロス集計)

▶ 志望順位種別 × 入学希望種別

志望順位種別	入学希望種別		合計
	入学する	志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学 入学しない (受験しない)	
第1志望として受験する	224	30	6
第2志望として受験する	25	122	2
第3志望以降として受験する	6	48	4
受験しない	17	9	563
合計	272	209	575

全体の **43.1%** が博士後期課程（博士課程）の進学を検討  
 そのうちの **21.2%** が「第1志望として受験」かつ「入学する」と回答（224件の回答）

▶ 学びたい専門分野（該当有無） × 志望順位種別

学びたい専門分野	志望順位種別（「受験しない」は除く）			合計
	第1志望として受験する	第2志望として受験する	第3志望以降として受験する	
設置する研究科に専門分野の該当あり	251	149	56	456
設置する研究科に専門分野の該当なし	8	1	2	11
合計	259	150	58	467

受験を検討している回答者の **97.6%** において、回答者の学びたい領域と設置構想中の領域が一致

▶ 学びたい専門分野（該当有） × 「入学する」かつ「第1希望として受験」

学びたい専門分野	入学希望種別 + 志望順位種別		合計
	「入学する」かつ「第1希望として受験」	それ以外	
設置する研究科に専門分野の該当あり	218	789	1,007
設置する研究科に専門分野の該当なし	6	43	49
合計	224	832	1,056

「第1志望として受験」かつ「入学する」回答者の **97.3%** において、回答者の学びたい領域と設置構想中の領域が一致

4) 独自に設定した設問項目への回答結果

Q8 理工学研究科への改組の構想や「博士後期課程」について関心がありますか。(SA)

回答項目	回答数	割合
とても関心がある	76	7.2%
関心がある	367	34.8%
あまり関心がない	462	43.8%
全く関心がない	151	14.3%
合計	1,056	

Q9 この改組による大学院（博士後期課程）へ進学をしたいと思いますか。（SA）

回答項目	回答数	割合
進学したい	65	6.2%
進学を検討中（今は決めていないが進路の選択肢として検討中も含む）	231	21.9%
経済的な条件など揃えば進学をしたい	149	14.1%
（博士前期課程修了後）就職した後、社会人入学してみたい	48	4.5%
進学予定なし	563	53.3%
合計	1,056	

Q10 大学院（博士後期課程）に進学するとした場合、進学を希望する領域は以下のうちどの領域ですか。（SA）

回答項目	回答数	割合
基礎科学 領域	223	21.1%
先進技術 領域	614	58.1%
環境デザイン 領域	219	20.7%
合計	1,056	

※ 割合（総回答数N=1,056に対する割合）

Q11 大学院（博士後期課程）を修了したと想定した場合、どのような進路に進みたいと思いますか。（MA）

回答項目	回答数	割合
企業の技術者，専門職	688	65.2%
企業の研究者	419	39.7%
起業	73	6.9%
公務員	148	14.0%
大学の研究者	151	14.3%
まだわからない・考えていない	224	21.2%
その他（高校教員など）	6	0.6%
合計	1,709	

※ 割合（総回答数N=1,056に対する割合）

Q12 今後、我が国の研究力の強化や国際的な競争力を向上させるためにも、あなたの学ぶ分野や専門分野において、博士の学位は重要になると考えますか。（SA）

回答項目	回答数	割合
かなり重要となる	266	25.2%
重要となる	618	58.5%
あまり重要とはならない	148	14.0%
全く重要ではない	24	2.3%
合計	1,056	

【独自項目における各学年別のクロス集計】

Q8 理工学研究科への改組の構想や「博士後期課程」について関心がありますか。(SA)

学年 (博士後期課程への 入学年度)		とても関心 がある	関心がある	あまり関心 がない	全く関心が ない	※各学年の 回答数
博士前期課程 2年次	回答数	4	17	37	12	70
	割合	5.7%	24.3%	52.9%	17.1%	
博士前期課程 1年次 (R7年度入学)	回答数	8	36	57	31	132
	割合	6.1%	27.3%	43.2%	23.5%	
学部 4年生 (R8年度入学)	回答数	8	38	91	42	179
	割合	4.5%	21.2%	50.8%	23.5%	
学部 3年生 (R9年度入学)	回答数	18	78	132	40	268
	割合	6.7%	29.1%	49.3%	14.9%	
学部 2年生 (R10年度入学)	回答数	21	113	100	18	252
	割合	8.3%	44.8%	39.7%	7.1%	
学部 1年生 (R11年度入学)	回答数	17	85	45	8	155
	割合	11.0%	54.8%	29.0%	5.2%	
合計	回答数	76	367	462	151	1,056
	割合	7.2%	34.8%	43.8%	14.3%	

※割合 (各学年の回答数に対する割合)

(必要な項目の Q1 において「博士後期課程 (博士課程) に進学」と回答した回答者のみでクロス集計)

学年 (博士後期課程への 入学年度)		とても関心 がある	関心がある	あまり関心 がない	全く関心が ない	※各学年の 進学を想定 している 回答数
博士前期課程 2年次	回答数		1			1
	割合		100.0%			
博士前期課程 1年次 (R7年度入学)	回答数	1	3			4
	割合	25.0%	75.0%			
学部 4年生 (R8年度入学)	回答数	1	7	5		13
	割合	7.7%	53.8%	38.5%		
学部 3年生 (R9年度入学)	回答数	8	19	15		42
	割合	19.0%	45.2%	35.7%		
学部 2年生 (R10年度入学)	回答数	8	39	15	2	64
	割合	12.5%	60.9%	23.4%	3.1%	
学部 1年生 (R11年度入学)	回答数	14	23	6	1	44
	割合	31.8%	52.3%	13.6%	2.3%	
合計	回答数	32	92	41	3	168
	割合	19.0%	54.8%	24.4%	1.8%	

※割合 (各学年の回答数に対する割合)

Q9 この改組による大学院（博士後期課程）へ進学をしたいと思いますか。（SA）

学年 (博士後期課程への 入学年度)		進学を検討 中（今は決 めていない が進路の選 択肢として 検討中も含 む）				進学予定な し	※各学年の 回答数
		進学したい	経済的な条 件など揃え ば進学をし たい	(博士前期 課程修了 後) 就職し た後、社会 人入学をし てみたい			
博士前期課程 2年次	回答数	2	1	10	7	50	70
	割合	2.9%	1.4%	14.3%	10.0%	71.4%	
博士前期課程 1年次 (R7年度入学)	回答数	7	4	23	16	82	132
	割合	5.3%	3.0%	17.4%	12.1%	62.1%	
学部 4年生 (R8年度入学)	回答数	5	17	19	7	131	179
	割合	2.8%	9.5%	10.6%	3.9%	73.2%	
学部 3年生 (R9年度入学)	回答数	12	52	37	10	157	268
	割合	4.5%	19.4%	13.8%	3.7%	58.6%	
学部 2年生 (R10年度入学)	回答数	22	90	34	6	100	252
	割合	8.7%	35.7%	13.5%	2.4%	39.7%	
学部 1年生 (R11年度入学)	回答数	17	67	26	2	43	155
	割合	11.0%	43.2%	16.8%	1.3%	27.7%	
合計	回答数	65	231	149	48	563	1,056
	割合	6.2%	21.9%	14.1%	4.5%	53.3%	

※割合（各学年の回答数に対する割合）

（必要な項目のQ1において「博士後期課程（博士課程）に進学」と回答した回答者のみでクロス集計）

学年 (博士後期課程への 入学年度)		進学を検討 中（今は決 めていない が進路の選 択肢として 検討中も含 む）				進学予定な し	※各学年の 進学を想定 している 回答数
		進学したい	経済的な条 件など揃え ば進学をし たい	(博士前期 課程修了 後) 就職し た後、社会 人入学をし てみたい			
博士前期課程 2年次	回答数			1			1
	割合			100.0%			
博士前期課程 1年次 (R7年度入学)	回答数	3		1			4
	割合	75.0%		25.0%			
学部 4年生 (R8年度入学)	回答数	2	4			7	13
	割合	15.4%	30.8%			53.8%	
学部 3年生 (R9年度入学)	回答数	7	16	10	1	8	42
	割合	16.7%	38.1%	23.8%	2.4%	19.0%	
学部 2年生 (R10年度入学)	回答数	10	31	15		8	64
	割合	15.6%	48.4%	23.4%		12.5%	
学部 1年生 (R11年度入学)	回答数	13	25	3		3	44
	割合	29.5%	56.8%	6.8%		6.8%	
合計	回答数	35	76	30	1	26	168
	割合	20.8%	45.2%	17.9%	0.6%	15.5%	

※割合（各学年の回答数に対する割合）

Q10 大学院（博士後期課程）に進学するとした場合、進学を希望する領域は以下のうちのどの領域ですか。（SA）

学年 (博士後期課程への 入学年度)		基礎科学 領域	先進技術 領域	環境デザイ ン領域	※各学年の 回答数
博士前期課程 2年次	回答数	17	39	14	70
	割合	24.3%	55.7%	20.0%	
博士前期課程 1年次 (R7年度入学)	回答数	19	89	24	132
	割合	14.4%	67.4%	18.2%	
学部 4年生 (R8年度入学)	回答数	33	105	41	179
	割合	18.4%	58.7%	22.9%	
学部 3年生 (R9年度入学)	回答数	64	140	64	268
	割合	23.9%	52.2%	23.9%	
学部 2年生 (R10年度入学)	回答数	58	136	58	252
	割合	23.0%	54.0%	23.0%	
学部 1年生 (R11年度入学)	回答数	32	105	18	155
	割合	20.6%	67.7%	11.6%	
合計	回答数	223	614	219	1,056
	割合	21.1%	58.1%	20.7%	

※割合（各学年の回答数に対する割合）

（必要な項目の Q1 において「博士後期課程（博士課程）に進学」と回答した回答者のみでクロス集計）

学年 (博士後期課程への 入学年度)		基礎科学 領域	先進技術 領域	環境デザイ ン領域	※各学年の 進学を想定 している 回答数
博士前期課程 2年次	回答数			1	1
	割合			100.0%	
博士前期課程 1年次 (R7年度入学)	回答数		4		4
	割合		100.0%		
学部 4年生 (R8年度入学)	回答数	2	9	2	13
	割合	15.4%	69.2%	15.4%	
学部 3年生 (R9年度入学)	回答数	10	25	7	42
	割合	23.8%	59.5%	16.7%	
学部 2年生 (R10年度入学)	回答数	8	42	14	64
	割合	12.5%	65.6%	21.9%	
学部 1年生 (R11年度入学)	回答数	11	29	4	44
	割合	25.0%	65.9%	9.1%	
合計	回答数	31	109	28	168
	割合	18.5%	64.9%	16.7%	

※割合（各学年の回答数に対する割合）

Q11 大学院（博士後期課程）を修了したと想定した場合、どのような進路に進みたいと思いますか。(MA)

学年 (博士後期課程への 入学年度)		企業の技術 者, 専門職	企業の研究 者	起業	公務員	大学の研究 者	まだわから ない・考え ていない	その他	※各学年の 回答数
博士前期課程 2年次	回答数 割合	51 72.9%	37 52.9%	3 4.3%	1 1.4%	12 17.1%	9 12.9%		70
博士前期課程 1年次 (R7年度入学)	回答数 割合	86 65.2%	70 53.0%	8 6.1%	9 6.8%	33 25.0%	12 9.1%	1 0.8%	132
学部 4年生 (R8年度入学)	回答数 割合	123 68.7%	63 35.2%	12 6.7%	26 14.5%	32 17.9%	30 16.8%	1 0.6%	179
学部 3年生 (R9年度入学)	回答数 割合	172 64.2%	105 39.2%	10 3.7%	32 11.9%	34 12.7%	67 25.0%	1 0.4%	268
学部 2年生 (R10年度入学)	回答数 割合	167 66.3%	90 35.7%	23 9.1%	55 21.8%	31 12.3%	64 25.4%		252
学部 1年生 (R11年度入学)	回答数 割合	89 57.4%	54 34.8%	17 11.0%	25 16.1%	9 5.8%	42 27.1%	3 1.9%	155
合計	回答数 割合	688 65.2%	419 39.7%	73 6.9%	148 14.0%	151 14.3%	224 21.2%	6 0.6%	1,056

※割合（各学年の回答数に対する割合）

(必要な項目の Q1 において「博士後期課程（博士課程）に進学」と回答した回答者のみでクロス集計)

学年 (博士後期課程への 入学年度)		企業の技術 者, 専門職	企業の研究 者	起業	公務員	大学の研究 者	まだわから ない・考え ていない	その他	※各学年の 進学を想定 している 回答数
博士前期課程 2年次	回答数 割合		1 100.0%			1 100.0%	1 100.0%		1
博士前期課程 1年次 (R7年度入学)	回答数 割合		1 25.0%		2 50.0%	3 75.0%	1 25.0%		4
学部 4年生 (R8年度入学)	回答数 割合	10 76.9%	4 30.8%		2 15.4%	4 30.8%	2 15.4%		13
学部 3年生 (R9年度入学)	回答数 割合	29 69.0%	25 59.5%	2 4.8%	2 4.8%	11 26.2%	5 11.9%		42
学部 2年生 (R10年度入学)	回答数 割合	53 82.8%	23 35.9%	11 17.2%	16 25.0%	15 23.4%	10 15.6%		64
学部 1年生 (R11年度入学)	回答数 割合	30 68.2%	18 40.9%	5 11.4%	10 22.7%	5 11.4%	8 18.2%		44
合計	回答数 割合	122 72.6%	72 42.9%	18 10.7%	32 19.0%	39 23.2%	27 16.1%		168

※割合（各学年の回答数に対する割合）

Q12 今後、我が国の研究力の強化や国際的な競争力を向上させるためにも、あなたの学ぶ分野や専門分野において、博士の学位は重要になると思いますか。(SA)

学年 (博士後期課程への 入学年度)		かなり重要 となる	重要となる	あまり重要 とはならな い	全く重要で はない	※各学年の 回答数
博士前期課程 2年次	回答数	21	38	11		70
	割合	30.0%	54.3%	15.7%		
博士前期課程 1年次 (R7年度入学)	回答数	36	72	20	4	132
	割合	27.3%	54.5%	15.2%	3.0%	
学部 4年生 (R8年度入学)	回答数	30	115	28	6	179
	割合	16.8%	64.2%	15.6%	3.4%	
学部 3年生 (R9年度入学)	回答数	70	147	40	11	268
	割合	26.1%	54.9%	14.9%	4.1%	
学部 2年生 (R10年度入学)	回答数	65	150	36	1	252
	割合	25.8%	59.5%	14.3%	0.4%	
学部 1年生 (R11年度入学)	回答数	44	96	13	2	155
	割合	28.4%	61.9%	8.4%	1.3%	
合計	回答数	266	618	148	24	1,056
	割合	25.2%	58.5%	14.0%	2.3%	

※割合 (各学年の回答数に対する割合)

(必要な項目の Q1 において「博士後期課程 (博士課程) に進学」と回答した回答者のみでクロス集計)

学年 (博士後期課程への 入学年度)		かなり重要 となる	重要となる	あまり重要 とはならな い	全く重要で はない	※各学年の 回答数
博士前期課程 2年次	回答数	1				1
	割合	100.0%				
博士前期課程 1年次 (R7年度入学)	回答数	2	2			4
	割合	50.0%	50.0%			
学部 4年生 (R8年度入学)	回答数	1	11	1		13
	割合	7.7%	84.6%	7.7%		
学部 3年生 (R9年度入学)	回答数	11	25	5	1	42
	割合	26.2%	59.5%	11.9%	2.4%	
学部 2年生 (R10年度入学)	回答数	16	42	6		64
	割合	25.0%	65.6%	9.4%		
学部 1年生 (R11年度入学)	回答数	23	19	2		44
	割合	52.3%	43.2%	4.5%		
合計	回答数	54	99	14	1	168
	割合	32.1%	58.9%	8.3%	0.6%	

※割合 (各学年の回答数に対する割合)

(現在の学部・大学院の所属コースまたはプログラムと進学意向のクロス集計)

クロス集計 (所属 × 項目 1・6・7)

1 大学院 (博士後期課程) 修了後の進路をどのように考えますか。 ※複数選択可 (MA)

所属コースまたはプログラム	博士後期課程 (博士課程) に進学		就職		留学		わからない・現時点ではイメージがわからない		その他		各コース・プログラム回答人数
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	
(院) 機械エネルギー工学コース (工学専門教育プログラム機械エネルギー分野)	1	1.9%	50	96.2%			2	3.8%			52
(院) 電気電子工学コース (工学専門教育プログラム電気電子工学分野)	2	4.7%	40	93.0%			3	7.0%			43
(院) 知能情報システム工学コース (工学専門教育プログラム知能情報システム工学分野)	3	8.8%	30	88.2%	2	5.9%	1	2.9%			34
(院) 知能情報システム工学コース (数理科学教育プログラム数理科学分野)			11	91.7%			1	8.3%			12
(院) 応用化学コース (工学専門教育プログラム応用化学分野)			26	96.3%			1	3.7%			27
(院) 応用化学コース (自然科学教育プログラム自然科学分野)			3	75.0%			2	50.0%			4
(院) 福祉環境工学建築学コース (工学専門教育プログラム福祉環境工学建築学分野)			31	100.0%	1	3.2%					31
(院) 福祉環境工学メカトロニクスコース (工学専門教育プログラム福祉メカトロニクス分野)	1	4.8%	20	95.2%							21
理工学部創生工学科 機械コース	22	27.5%	59	73.8%	2	2.5%	13	16.3%			80
理工学部創生工学科 電気電子コース	17	16.2%	78	74.3%	1	1.0%	22	21.0%	1	0.0%	105
理工学部創生工学科 建築学コース	15	14.4%	82	78.8%	8	7.7%	18	17.3%			104
理工学部創生工学科 福祉メカトロニクスコース	10	21.7%	31	67.4%	1	2.2%	12	26.1%			46
理工学部共創理工学科 数理科学コース	4	11.4%	22	62.9%			10	28.6%			35
理工学部共創理工学科 知能情報システムコース	29	17.0%	133	77.8%	5	2.9%	31	18.1%	1	0.0%	171
理工学部共創理工学科 自然科学コース	5	33.3%	11	73.3%			5	33.3%			15
理工学部共創理工学科 応用化学コース	14	12.7%	88	80.0%	1	0.9%	24	21.8%			110
理工学部理工学科 数理科学プログラム	3	42.9%	4	57.1%			2	28.6%	1	0.0%	7
理工学部理工学科 知能情報システムプログラム	6	25.0%	15	62.5%			7	29.2%			24
理工学部理工学科 物理学連携プログラム	1	100.0%	1	100.0%							1
理工学部理工学科 電気エネルギー・電子工学プログラム	8	29.6%	13	48.1%	1	3.7%	11	40.7%			27
理工学部理工学科 機械工学プログラム	12	27.3%	20	45.5%	1	2.3%	18	40.9%	1	0.0%	44
理工学部理工学科 知能機械システムプログラム	5	23.8%	12	57.1%			7	33.3%			21
理工学部理工学科 生命・物質化学プログラム	3	27.3%	7	63.6%			3	27.3%			11
理工学部理工学科 地域環境科学プログラム	3	30.0%	2	20.0%			6	60.0%			10
理工学部理工学科 建築学プログラム	3	25.0%	7	58.3%			5	41.7%			12
工学部 (学科に関わらずこれを選択してください)	1	11.1%	6	66.7%			3	33.3%			9
合計	168		802		23		207		4		1,056

(定員充足の推計)

▼ 学年別の「進学を想定」とする学生数

学年	博士後期課程 の入学年	アンケート回答者 の合計	回答割合	「進学を想定」 とする学生数
学部 1年生	R11年度入学	155	28.4%	44
学部 2年生	R10年度入学	252	25.4%	64
学部 3年生	R9年度入学	268	15.7%	42
学部 4年生	R8年度入学	179	7.3%	13
博士前期課程 1年次 (M1)	R7年度入学	132	3.0%	4
博士前期課程 2年次 (M2)	—	70	1.4%	1

▼ 学年別の回答割合をもとに、在籍者数から「進学を想定」とする学生数を推計

学年	博士後期課程 の入学年	在籍者数 (S)	回答割合 (R)	「進学を想定」と する学生数 (推計) $S \times R$
学部 1年生	R11年度入学	354	28.4%	101
学部 2年生	R10年度入学	393	25.4%	100
学部 3年生	R9年度入学	457	15.7%	72
学部 4年生	R8年度入学	351	7.3%	26
博士前期課程 1年次 (M1)	R7年度入学	149	3.0%	4
博士前期課程 2年次 (M2)	—	141	1.4%	2

## 資料5 自治体と産業界へのヒアリング調査・アンケート調査の結果

### 1) 調査概要

理工学部では2023年度より「理工学部ステークホルダー会議」を設置した。このステークホルダー会議は、本学部の目標・計画、組織運営等に関する意見等を聴取することを目的として設置した会議である。以下に関する意見聴取、検討及び提言を行うものであり、大分県内の企業・団体、自治体を代表する関係者から構成される。

1. 本学部の将来像に関する事項
2. 本学部の教育研究の充実及び推進方策に関する事項
3. 本学部と産業界との連携方策に関する事項
4. その他前各号に関連し必要となる事項

このステークホルダー会議において、理工学研究科設置への意見等の情報収集を行なった。会議の委員は、理工学部において設置している研究クラスターからの依頼に基づく委員と、学部からの依頼に基づく委員で構成され、それぞれ6名ずつ、計12名の委員により構成されている。なお、本資料は、博士前期課程・後期課程で共通のものである。

#### 【調査方法等】

調査期間 : 令和5年11月14日(火)～24日(金)  
回答回収方法 : Google Formを利用したアンケート 及び  
対面による意見聴取 <11月22日(水)実施>

#### 【対象 ステークホルダー会議の委員】

研究クラスターからの依頼による委員	学部からの依頼による委員
大分高専非常勤講師	大分県工業連合会 会長
大分県情報サービス産業協会 会長	大分県商工観光労働部 部長
大分県産業科学技術センター	大分県土木建築部 部長
大分県医療ロボット・機器産業協議会 会長	大分県農林水産部 部長
フンドーキン醤油(株) 社長	理工学部後援会 会長
公益社団法人大分県建築士会 会長	理工学部同窓会 会長

### 2) ステークホルダー会議におけるヒアリング調査結果

各界の代表から意見を聴取した。以下がその概要である。

会議では、理工系人材の育成と輩出に期待する一方、社会はそのスピード感も求めていることが把握できた。理工学研究科の改組の構想については、地域との連携も含めて期待する声が上がった。

#### (意見の概要)

- ✓ アカデミアとしての知の機能強化はもちろん、研究者の育成だけでなく、産業界としての人材育成も重要。
- ✓ 地場企業だけでなく、様々な企業との共同研究、県外企業の県内参入をGX・DXにおいても進めていただきたい。ハブとなることを期待。
- ✓ 企業との共同研究を通じて、企業にとっても関連のある分野での共同研究を拡大することで連

携や定員充足の対応を図ってはどうか。

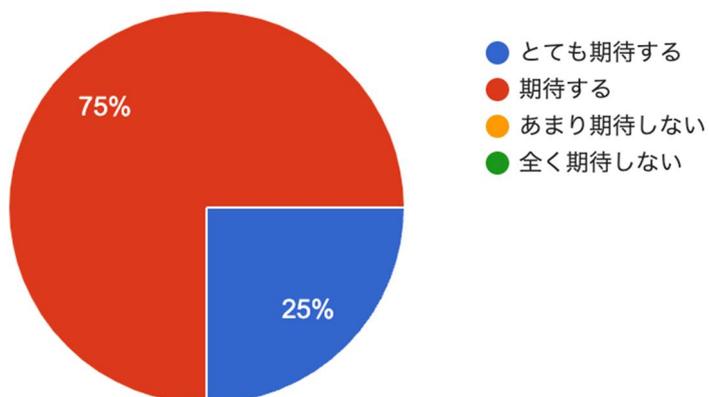
- ✓ 最先端の取組を作っていただきたい。
- ✓ 農林水産業の分野においても、今後も共同研究やスマート技術の活用などを期待したい。
- ✓ 大分の発展のために必要なものを学生と見つけてもらい、大学の強みを出していただきたい。
- ✓ 高大連携も必要である。(理工系人材の確保のためにも)
- ✓ 今後地域連携が鍵となる。組織が集まった時に縦割りになりがちのため、アカデミア・企業・産業界のヒエラルキーをなくし、地域版エコシステムができれば良い。研究ベースでそれぞれの組織が一つの課題に向かっていく仕組みが必要で、そのなかで NEDO や JST の外部資金獲得も共同で進めていくことが必要。
- ✓ 博士号取得のための経済的なサポートがあれば良い。
- ✓ 県外に出て行ったとしても、大分に戻ってくる良い循環をつくる。
- ✓ 医学部との連携は取れているのか。医学部との連携が見えない。
- ✓ ニーズ・シーズマッチングがマンネリ化している。
- ✓ 会社を一度辞めて国の研究機関で働きながら博士を取得した人物がいる。その後戻ってきてとても企業にとって貢献してくれている。
- ✓ 科学的なアプローチができる学生、総合的な学問・勉強が重要と考えている。
- ✓ IT, DX が重要であることはわかるが、建築では基本となる部分をしっかりと身につけていただきたい。外部から学外の技術者を呼んで講義をすることも必要。
- ✓ 博士・修士は今までいなかった。しかし、時代が大きく変わる中で新製品、付加価値の高いものを中小企業も取り組む必要がある。海外の方とのやりとりのかで、海外の企業はドクターの方が出てくる。ドクターを育てて海外と対等でやれるような強さが必要。
- ✓ 社会人ドクターは一定期間会社の時間を割いていくため、学位取得のスケジュール感や情報の見える化が必要。
- ✓ 大分県の就職先が少ないため、定着する仕組みづくりが必要。
- ✓ 社会としては人材供給を急いで欲しい分野がある。(土木系などは人材不足が著しい)
- ✓ リケジョの取組については、小中学生から理学・工学の楽しさを伝えていくこと。大学の学問の伝え方、社会の関わり必要性学校現場の先生との連携などの取組が必要。

### 3) アンケート調査結果

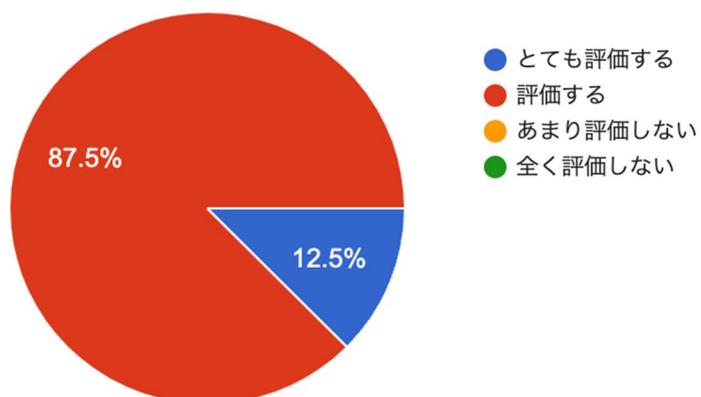
当初は企業・団体等にアンケート調査を実施することで進めていたが、大企業においては研究開発が本社（東京等）で行われていることや企業立地の特性などを考慮して、地域ニーズを中心に情報収集することとした。ステークホルダー会議の委員はそれぞれの分野や行政施策において代表的な立場であり、地域的な状況や課題を熟知していることから、委員へのアンケート及び前頁に示した意見聴取により社会的ニーズを把握した。

委員 12 名のうち回答をいただいた件数は 8 件 (N=8) である。

Q1 改組の理念や目的をご覧になり、博士前期課程・後期課程における人材育成や研究開発などへの期待はどうお考えですか (SA)



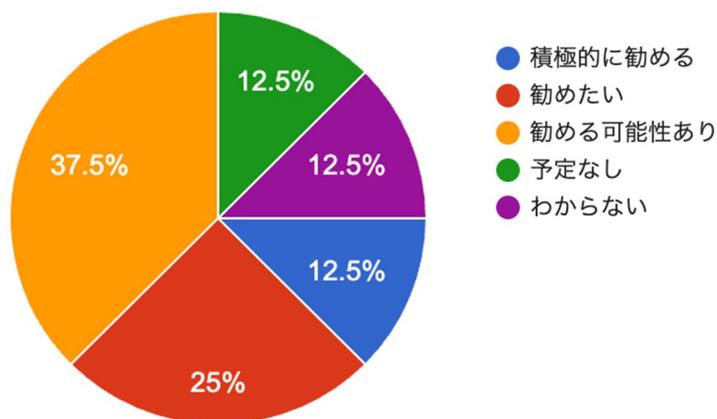
Q2 改組の理念や目的に基づく、新しい研究科のプログラムや領域についてどのように評価されますか。(SA)



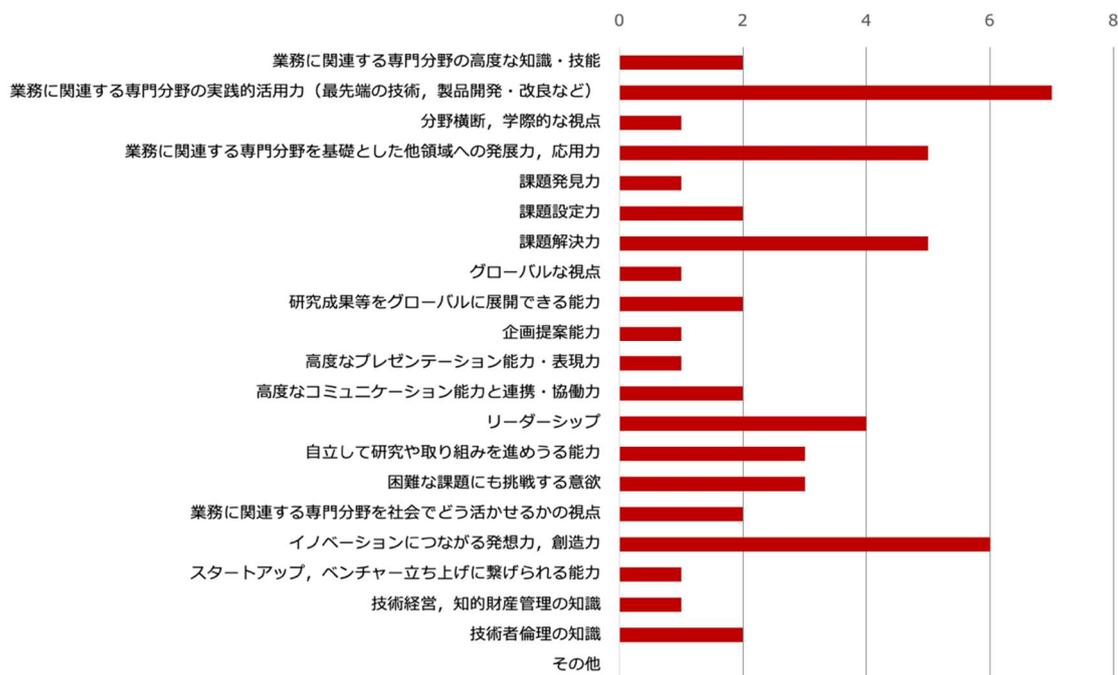
Q3 新しい研究科のプログラムや領域以外で今後強化すべきものがあればご記入ください。(自由記述)

- ・ 高い視点と視野を身に着けていくためのプロデュース力やデザイン力の強化
- ・ 学外の人材を積極的な活用も検討していただき、実践的要素を身に付けて貰いたい
- ・ 突出した能力（他はある程度目をつぶって）を持つ人材確保ができる自由度のある選考
- ・ 概ねカバーされていると思います。AI を活用・社会実装できる人材育成を期待します

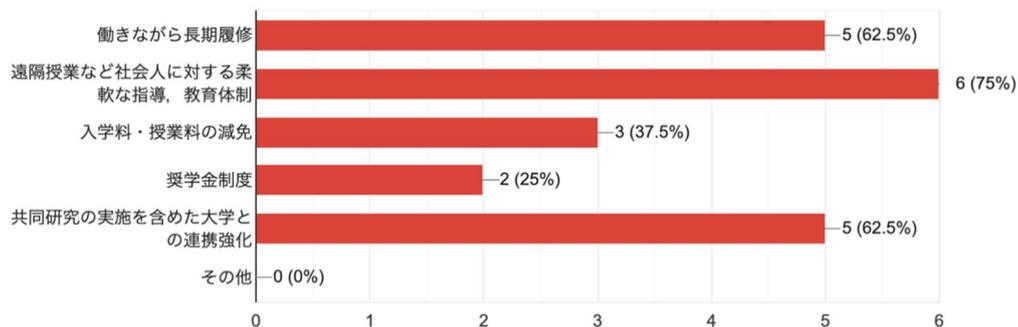
Q4 この改組により設置されるプログラムと領域において、職員へのリカレント・リスキリングのために進学（学位取得）を進めたいと思いますか。（SA）



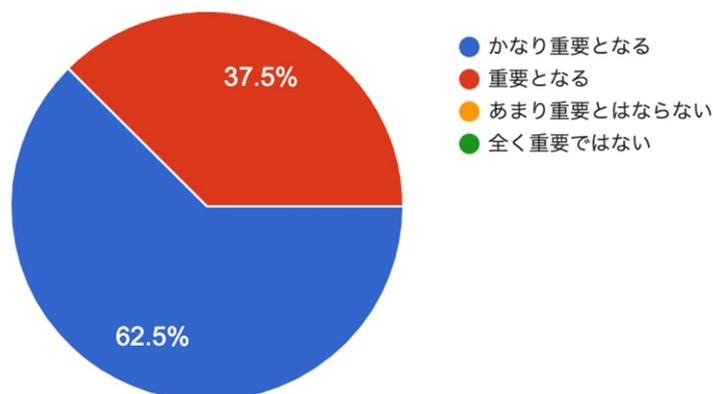
Q5 貴社・貴組織の社員・職員の方が理工学研究科（博士前期課程または後期課程）に入学されることを想定した場合、大学院においてどのような能力・知識を身につけさせたいとお考えでしょうか。（MA）



Q6 貴社・貴組織の社員・職員の方が大学院に入学することを想定した場合、社会人入学のための条件として該当するものを選択してください。(MA)



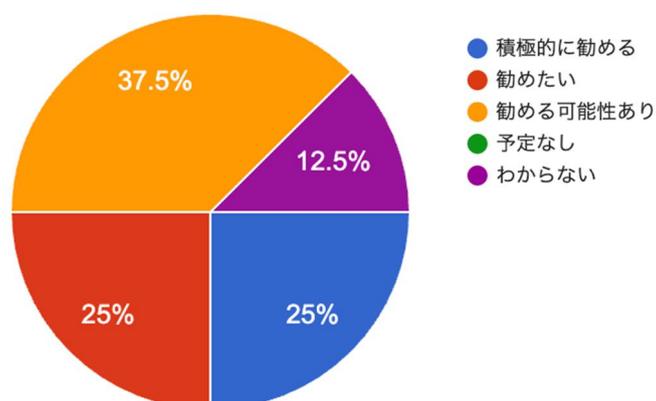
Q7 世界と同等に渡り合うためにも、今後企業の研究力は重要になると考えますか。(SA)



Q8 今後、研究力の強化や国際的な競争力を向上させるためにも、博士の学位は重要になると考えますか。(SA)



Q9 本学では、共同研究・受託研究などで自治体や企業との連携を進めることが重要と考えていますが、その延長上に博士の学位取得を職員に勧めることは考えられますか。(SA)



Q10 その他、研究科の改組に求めること、期待することなど。

- ・ 応用力を身に着けイノベーションを起こせるエネルギー溢れる学生が育つことを期待したい
- ・ DX 人材や IT 人材の必要性は理解で理工学の理工学のそれぞれの分野の専門性をしっかり身に付けておく事が重要であると思います。
- ・ 大学院生の研究活動の活性化。国内学会参加旅費等の支援やグローバルな視点を養うための外国の研究者や学生との交流の場（研究室単位で小規模なものを複数）の支援などが考えられます。
- ・ 例えば今回の国のコロナ対策では本当に効果があるのかよくわからないままなされた対策があった気がします。きちんとしたシミュレーションがもっとなされるべきだと感じました。経済学部とタイアップして国家的な問題などについてのシミュレーションの研究を行うというのはどうか。
- ・ 修了者の地元産業界への定着
- ・ アカデミアの本分である学理の追求を維持したまま、研究者の育成を進めてもらいたい。

資料6 競合校の比較 <基礎となる学部と大学院の構成の関係>

佐賀大学	鹿児島大学	愛媛大学	大分大学
理工学部 [480名] (数理サイエンスコース, データサイエンスコース, 知能情報システム工学コース, 情報ネットワーク工学コース, 生命化学コース, 応用化学コース, 物理学コース, 機械エネルギー工学コース, メカニカルデザインコース, 電気エネルギー工学コース, 電子デバイス工学コース, 都市基盤工学コース, 建築環境デザインコース)	理学部 [185名] 理学科 (数理情報科学プログラム, 物理・宇宙プログラム, 化学プログラム, 生物学プログラム, 地球科学プログラム) 工学部 [440名] 先進工学科 [385名] (機械工学プログラム, 電気電子工学プログラム, 海洋土木工学プログラム, 化学工学プログラム, 化学生命工学プログラム, 情報・生体工学プログラム) 建築学科 [55名] (建築学プログラム)	理学部 [225名] 理学科 (数学・数理情報コース, 物理学コース, 化学コース, 生物学コース, 地学コース) 工学部 [500名] 工学科 (機械・システム分野, 電気・情報分野, 材料・化学分野, 土木・環境分野)	理工学部 [355名] 理工学科 (数理科学プログラム, 知能情報システムプログラム, 物理学連携プログラム, 電気エネルギー・電子工学プログラム, 機械工学プログラム, 知能機械システムプログラム, 生命・物質化学プログラム, 地域環境科学プログラム, 建築学プログラム)
佐賀大学大学院 理工学研究科	鹿児島大学大学院 理工学研究科	愛媛大学大学院 理工学研究科	大分大学大学院 理工学研究科
博士前期課程 [167名] 学部入学定員比約 35%	博士前期課程 [301名] 学部入学定員比約 48%	博士前期課程 [250名] 学部入学定員比約 35%	博士前期課程 [143名] 学部入学定員比約 46%
▶理工学専攻 数学コース 物理学コース データサイエンスコース 知能情報工学コース 機能材料化学コース 機械エネルギー工学コース 機械システム工学コース 電気電子工学コース 都市基盤工学コース 建築環境デザインコース	▶理学専攻 (64名) 学部入学定員比約 35% 数理情報科学プログラム 物理・宇宙プログラム 化学プログラム 生物学プログラム 地球科学プログラム ▶工学専攻 (237名) 学部入学定員比約 54% 機械工学プログラム 電気電子工学プログラム 海洋土木工学プログラム 化学工学プログラム 化学生命工学プログラム 情報・生体工学プログラム 建築学プログラム	▶理工学専攻 基盤プログラム 産業基盤プログラム 社会基盤プログラム 数理情報プログラム 自然科学基盤プログラム 特別プログラム アジア防災学特別プログラム 地域エンジニア養成プログラム	▶理工学専攻 情報・数理・データサイエンスプログラム (高度実践系) 情報・数理・データサイエンスプログラム (情報・数理系) 先進機械システムプログラム 物理・電気電子プログラム 応用化学プログラム 地域デザイン・建築学プログラム
博士後期課程 [20名] 博士前期入学定員比約 12%	博士後期課程 [24名] 博士前期入学定員比約 8%	博士後期課程 [23名] 博士前期入学定員比約 9%	博士後期課程 [6名] 博士前期入学定員比約 4%
▶理工学専攻 数理・情報サイエンスコース 機械・電気エネルギー工学コース 社会基盤・建築デザインコース バイオ・マテリアルエンジニアリングコース	▶総合理工学専攻 基盤研究コース 先端科学技術コース	▶理工学専攻 基盤プログラム アジア防災学特別プログラム	▶理工学専攻 基礎科学領域 先進技術領域 環境デザイン領域

※ [ ] 内の人数は「入学定員」

<養成する人材像, 教育方法>

	佐賀大学大学院 理工学研究科	鹿児島大学大学院 理工学研究科	愛媛大学大学院 理工学研究科	大分大学大学院 理工学研究科
養成する人材像	<p>(博士前期課程) 理工学に関する実学を学び先端的研究と創造を通し, 急速な社会変化に対応できる人材を育成</p> <p>(博士後期課程) 理学および工学を主体とした融合領域を含む学問領域において, 高度な専門的知識と論理的思考力を持ち, 社会のグローバル化に対応でき, 実践力に富む優れた人材を育成</p>	<p>今日の諸課題に対応できる倫理的判断力及び人間生活を取り巻く自然についての総合的な知識をもち, 自然科学に関する学問の高度化と多様化に幅広く柔軟に対応できる, 次世代を担う技術者, 研究者, さらに高度専門職業人を養成する</p>	<p>高い学識・技能・人間性, 俯瞰的な視野, 新しい価値観を有し, 地域とつながり, あるいはグローバルなステージで, 協調性高く, 創造力豊かに活躍できる高度理工系人材を育成, 輩出する</p>	<p>(博士前期課程) 理工学部で培った基礎的かつ応用的な専門的能力をさらに高め, 多様な課題への解決能力を有し, また, 国際的な活動も展開できる研究者・技術者や教育者。社会人にあつては, 社会や企業活動の経験に基づき, 研究能力を醸成し, 国際的な活動も展開できる技術者。 DX人材育成プログラムである「情報・数理・データサイエンスプログラム (高度実践系)」においては, 不確実で変動性の著しい社会の維持・発展に必要なデジタル革新(DX)を主導する新たなDX人材育成。</p> <p>(博士後期課程) 高度で最先端の知識を修得し, 独立かつ学際的な連携もとで研究を遂行することができ, 社会の課題解決やイノベーションにつながる新たな分野や理論などの創出に取り組むことができる, 多様な価値観を尊重でき, 高い倫理性をも備えた指導的研究者・技術者。</p>
教育方法	<p>(博士前期課程) 産業や社会の急激な構造変革に対応できるように, 専門分野の枠を越えた内容として, 先進健康科学研究科と農学研究科との協力の下に, 様々な専門分野の学生が合同で行うプレゼンテーションやディスカッション, 異分野の学生が協力して課題に取り組むPBL, 専門分野外の科目の履修を通じて, 複眼的視点を身に付ける。</p> <p>(博士後期課程) 大学院のカリキュラムと企業をはじめとする社会のニーズを適合させるため、「Practical Cooperative Project (実践的協働プロジェクト)」を必修科目として課し, 学生の専門に関連のある企業や研究所等との共同研究やプロジェクト等に参加し, 協働作業および問題解決を通して, 社会の求める実践力を身に付けさせる。</p>	<p>科学・技術の専門家として, 幅広い視野をもち, グローバル社会で活躍できる人材を育成するため各専攻が編成した学位プログラムを構成。</p>	<p>理工系人材の汎用基盤能力を養成する【専攻共通科目】, プログラムの学修において共通に要求される知識・技能の基盤を養成する【プログラム共通科目】, 高度な専門知識・技能を学修し専門能力を確立する【専門科目】に分類される科目群からカリキュラムを編成。</p>	<p>(博士前期課程) 学部における理工融合教育からの展開力をさらに強化し, 学際領域に係る課題をグローバルな視点から, 複合・融合的に解決できる能力や資質を養成する。ディプロマ・ポリシーで定めた3つの能力を育成するため, 全研究科共通科目, 理工学連携・基礎科目群, 理工専門科目と研究展開科目群を含むカリキュラムマップ等に基づく, 横断的かつ体系的な教育課程を編成する</p> <p>(博士後期課程) 学部及び博士前期課程で養成してきた学際的かつ複合・融合的に諸課題を解決できる能力や資質, グローバルな視点をさらに強化し, 専門分野における高度な発展力・展開力と研究プロジェクト遂行能力を養成する。ディプロマ・ポリシーに示す人材養成の目標を達成できるように, 具体的に次の学習・教育到達目標を設定し, それに対応した教育課程を編成し実施する。</p>

(各大学ホームページより)

## 資料7 競合校の入試志願動向（3ヵ年）

### 大分大学 工学研究科 博士前期課程

	R5		R4		R3	
	全体	内部進学 (内数)	全体	内部進学 (内数)	全体	内部進学 (内数)
志願者数(A)	185	(171)	195	(190)	177	(165)
入学者数(B)	153	(145)	145	(142)	133	(131)
入学定員(T)	135		135		135	
志願倍率(A/T)	137.0%		144.4%		131.1%	
入学定員充足率(B/T)	113.3%		107.4%		98.5%	
3ヵ年の平均充足率	106.4%					

### 佐賀大学 理工学研究科 博士前期課程

	R5		R4		R3	
	全体	内部進学 (内数)	全体	内部進学 (内数)	全体	内部進学 (内数)
志願者数	236	(197)	241	(205)	213	(194)
入学者数(E)	186	(163)	179	(161)	166	(155)
入学定員(T)	167		167		167	
志願倍率(A/T)	141.3%		144.3%		127.5%	
入学定員充足率(B/T)	111.4%		107.2%		99.4%	
3ヵ年の平均充足率	106.0%					

### 鹿児島大学 理工学研究科 博士前期課程

	R5		R4		R3	
	全体	内部進学 (内数)	全体	内部進学 (内数)	全体	内部進学 (内数)
志願者数(A)	387	(340)	373	(335)	354	(342)
入学者数(B)	305	(288)	274	(270)	314	(309)
入学定員(T)	301		301		286	
志願倍率(A/T)	128.6%		123.9%		123.8%	
入学定員充足率(B/T)	101.3%		91.0%		109.8%	
3ヵ年の平均充足率	100.7%					

### 愛媛大学 理工学研究科 博士前期課程

	R5		R4		R3	
	全体	内部進学 (内数)	全体	内部進学 (内数)	全体	内部進学 (内数)
志願者数(A)						
入学者数(B)	265	(256)	273	(256)	262	(245)
入学定員(T)	250		250		250	
志願倍率(A/T)						
入学定員充足率(B/T)	106.0%		109.2%		104.8%	
3ヵ年の平均充足率	106.7%					

### 博士後期課程

	R5		R4		R3	
	全体	内部進学 (内数)	全体	内部進学 (内数)	全体	内部進学 (内数)
志願者数(A)	7	(1)	4	(2)	2	(1)
入学者数(B)	7	(1)	4	(2)	※3	(1)
入学定員(T)	8		8		8	
志願倍率(A/T)	87.5%		50.0%		25.0%	
入学定員充足率(B/T)	87.5%		50.0%		37.5%	
3ヵ年の平均充足率	58.3%					

※ R2入学で合格したものの、新型コロナウイルスの影響により入学を1年延期した外国人（1名）を含む

### 博士後期課程

	R5		R4		R3	
	全体	内部進学 (内数)	全体	内部進学 (内数)	全体	内部進学 (内数)
志願者数(A)	33	(8)	24	(9)	24	(10)
入学者数(B)	20	(7)	16	(8)	20	(9)
入学定員(T)	20		20		20	
志願倍率(A/T)	165.0%		120.0%		120.0%	
入学定員充足率(B/T)	100.0%		80.0%		100.0%	
3ヵ年の平均充足率	93.3%					

### 博士後期課程

	R5		R4		R3	
	全体	内部進学 (内数)	全体	内部進学 (内数)	全体	内部進学 (内数)
志願者数(A)	18	(10)	9	(6)	7	(4)
入学者数(B)	17	(10)	7	(5)	7	(4)
入学定員(T)	24		24		24	
志願倍率(A/T)	75.0%		37.5%		29.2%	
入学定員充足率(B/T)	70.8%		29.2%		29.2%	
3ヵ年の平均充足率	43.1%					

### 博士後期課程

	R5		R4		R3	
	全体	内部進学 (内数)	全体	内部進学 (内数)	全体	内部進学 (内数)
志願者数(A)						
入学者数(B)	29	(12)	21	(13)	20	(13)
入学定員(T)	23		23		23	
志願倍率(A/T)						
入学定員充足率(B/T)	126.1%		91.3%		87.0%	
3ヵ年の平均充足率	101.4%					

資料8 近年の研究科の入学定員充足状況

■博士前期課程の受験者数等

コース	募集人員	選抜 種別	令和3年度				令和4年度				令和5年度			
			志願者	受験者数	合格者	入学者数	志願者	受験者数	合格者	入学者数	志願者	受験者数	合格者	入学者数
機械エネルギー工学	26	一般(口)	46	24	24	24	42	15	15	15	34	19	18	18
		一般(審)	20	41	16	40	26	40	24	35	15	15	11	26
		社会人	(0)	(0)	(0)	(0)	(4)	(2)	(2)	(1)	(1)	(0)	(0)	(0)
電気電子	26	一般(口)	31	9	9	9	29	9	9	9	18	9	9	9
		一般(審)	22	28	19	28	20	29	20	27	18	16	17	16
		社会人	(0)	(0)	(0)	(0)	(4)	(4)	(4)	(4)	(2)	(2)	(2)	(2)
知能情報 (工学専門)	28	一般(口)	24	13	13	13	28	13	13	13	20	10	10	10
		一般(審)	8	24	8	22	15	28	15	25	12	7	20	10
		社会人	(2)	(2)	(1)	(1)	(5)	(5)	(5)	(4)	(3)	(3)	(3)	(3)
知能情報 (数理科学)	28	一般(口)	5	4	4	4	1	1	1	1	4	1	1	1
		一般(審)	1	5	1	5	0	1	0	1	0	4	1	3
		社会人	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
応用化学 (工学専門)	25	一般(口)	11	11	11	10	10	10	10	10	11	11	10	10
		一般(審)	21	10	21	10	19	33	23	32	22	27	17	26
		社会人	(4)	(4)	(3)	(3)	(3)	(9)	(8)	(8)	(8)	(7)	(9)	(7)
応用化学 (自然科学)	25	一般(口)	5	3	3	3	5	2	5	2	3	0	1	0
		一般(審)	2	5	2	4	2	5	2	3	0	1	0	6
		社会人	(0)	(0)	(2)	(0)	(1)	(5)	(5)	(3)	(1)	(3)	(3)	(2)
福祉環境工学 建築学	18	一般(口)	9	9	9	4	4	7	7	4	4	3	3	3
		一般(審)	27	18	25	16	20	32	25	30	23	20	16	19
		社会人	(4)	(4)	(4)	(4)	(4)	(6)	(6)	(6)	(8)	(8)	(8)	(7)
福祉環境工学 メカトロニクス	12	一般(口)	11	11	11	9	9	20	20	19	19	25	22	20
		一般(審)	26	13	26	13	22	11	25	5	24	4	22	3
		社会人	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(3)	(3)	(3)	(3)	(11)	(11)	(11)
計	135	一般(口)	84	84	84	72	72	78	78	74	74	82	77	75
		一般(審)	185	92	175	83	163	81	153	76	195	116	189	110
		社会人	(12)	2	(12)	2	(10)	1	(36)	0	(33)	0	(33)	0
		外国人	7	6	5	5	4	4	1	1	1	1	0	
		入学定員に 対する割合 (%)				113.3						107.4		98.5

\* ( ) は女性の数を内数で示す。

コース	募集人員	令和2年度				平成31年度			
		志願者	受験者数	合格者	入学者数	志願者	受験者数	合格者	入学者数
機械エネルギー工学	29	32	30	30	30	23	23	23	23
		27	27	52	22	49	19	50	27
		(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)
電気電子	29	17	16	16	15	11	11	11	8
		20	20	32	16	27	12	36	25
		(0)	(0)	(0)	(0)	(1)	(1)	(1)	(1)
知能情報	26	12	12	12	12	12	12	16	15
		12	12	24	12	24	12	26	10
		(3)	(3)	(3)	(3)	(3)	(3)	(0)	(0)
応用化学	22	6	6	6	6	10	10	10	8
		24	30	26	20	24	18	40	30
		(9)	(9)	(9)	(9)	(9)	(10)	(10)	(10)
福祉環境工学 建築学	18	6	6	3	3	6	6	6	6
		24	31	24	20	22	19	21	15
		(4)	(4)	(2)	(2)	(2)	(9)	(9)	(9)
福祉環境工学 メカトロニクス	11	9	7	7	7	8	8	8	5
		4	3	12	3	12	3	14	5
		(2)	(1)	(1)	(1)	(1)	(3)	(3)	(1)
計	135	82	77	74	73	74	74	74	65
		111	110	170	93	158	83	187	112
		(19)	(18)	(16)	0	(16)	0	(24)	0
		3	3	3	2	2	1	1	1
						117.0			113.3

## ■博士後期課程の受験者数等

	入学定員 (人)	志願者数 (人)	志願者倍率	入学者数 (人)	入学定員充足率	収容定員 (人)	在籍者数 (人)	収容定員充足率	入学者内訳
R5	8	6	0.75	6	0.75	24	19	0.79	本学前期課程 1 他大学 1 社会人 4 (うち1名は秋入学)
R4	8	4	0.50	4	0.50	24	18	0.75	本学前期課程 1 本学前期課程 (1年前修了) 1 社会人 2
R3	8	2	0.25	3	0.38	24	13	0.54	本学前期課程 1 社会人 2 (うち1名は前年度入学予定を延期し外圍より入学)
R2	8	5	0.63	4	0.50	24	15	0.63	本学前期課程 1 社会人 2 国費留学生 1
H31/R元	8	2	0.25	2	0.25	24	18	0.75	本学前期課程 1 社会人 1
H30	8	5	0.63	5	0.63	24	24	1.00	本学前期課程 3 本学研究生 1 私費留学生 1

※ R2 入学で合格したもの、新型コロナの影響により入学を1年延期した外国人 (1名) を含む

## ■充足率の推移 (まとめ)

### (博士前期課程)

コース・教育プログラム	入学定員	充足率			備考
		R5	R4	R3	
A 機械エネルギー工学	26	1.50	1.19	1.00	
B 電気電子工学	26	1.00	0.96	0.62	
C 知能情報システム工学 (工学専門)	28	0.89	0.75	0.75	入学者数 21,20,18
D 知能情報システム工学 (数理科学)					入学者数 4,1,3
E 応用化学 (工学専門)	25	0.84	1.08	1.04	入学者数 19,26,22
F 応用化学 (自然科学)					入学者数 2,1,4
G 福祉環境工学建築学	18	1.11	1.06	1.06	入学者数 20,19,19
H 福祉環境工学メカトロニクス	12	1.83	1.83	2.17	
	135	1.13	1.07	0.99	

コース	入学定員	充足率	
		R2	H31
A 機械エネルギー工学	29	1.69	1.55
B 電気電子工学	29	0.93	0.97
C 知能情報システム工学	26	0.92	0.96
E 応用化学	22	1.09	1.18
G 福祉環境工学建築学	18	1.22	1.00
H 福祉環境工学メカトロニクス	11	1.09	1.00
	135	1.17	1.13

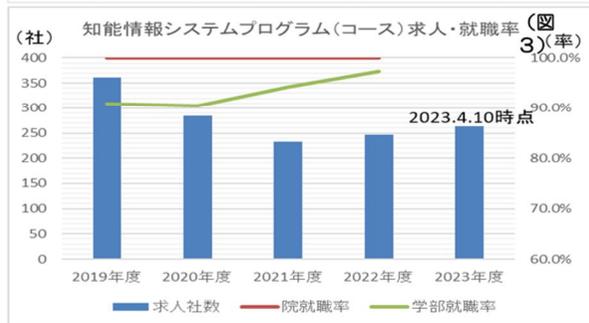
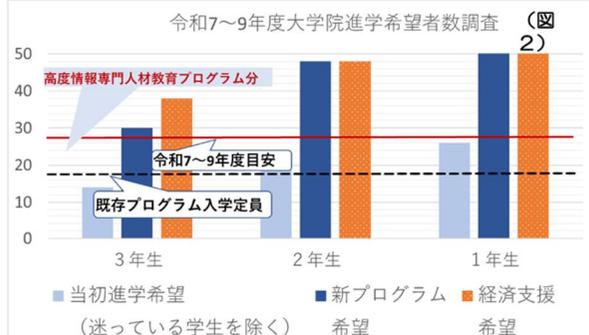
### (博士後期課程)

コース・教育プログラム	入学定員	充足率				
		R5	R4	R3	R2	H31
物質生産工学コース 環境工学コース	8	0.75	0.50	0.375	0.50	0.25
	入学者数	6	4	3	4	2
	(社会人 内数)	(4)	(2)	(2)	(2)	(1)

**DX人材育成基盤プログラムニーズ調査**

**①参考）学部、大学院学生の定員増の背景**

理工学部知能情報システムコース  
 (2023(令和5)年度より理工学部知能情報プログラム)及び  
 工学研究科知能情報システムコースのインプット・アウトプット状況



- ✓ DX人材育成基盤プログラムの母体となる、知能情報システムコース（現プログラム）の志願倍率は、過去5年平均で4.5倍、前期倍率に限っても平均3.7倍と高い水準を保っている（図1）。
- ✓ 現在学生（1～3年次生）の大学院への進学希望は、新教育プログラムや付随する経済支援により確実に増加。令和7年度～令和9年度の定員分（10名）以上の志望者が既に存在する（図2）。
- ✓ 学部および研究科のコースへの求人社数は、コロナ禍における減少状況を脱しつつあり、2023年度卒業・修了生に対する求人社数については、4月現在ですでに昨年度を超えている（264社）（図3）
- ✓ 大分大学で開催する企業説明会には、全国から多くの情報系企業が足を運んで参加しており、その数は、2019年以降40社程度から59社（2022年度）と右肩上がりが増加し続けている。
- ✓ 就職率は、大学院修了生については常に100%であり、学部生についても、コロナ禍の影響を受けた、2020年度の90%を下限に、上昇傾向が顕著である（図3）。

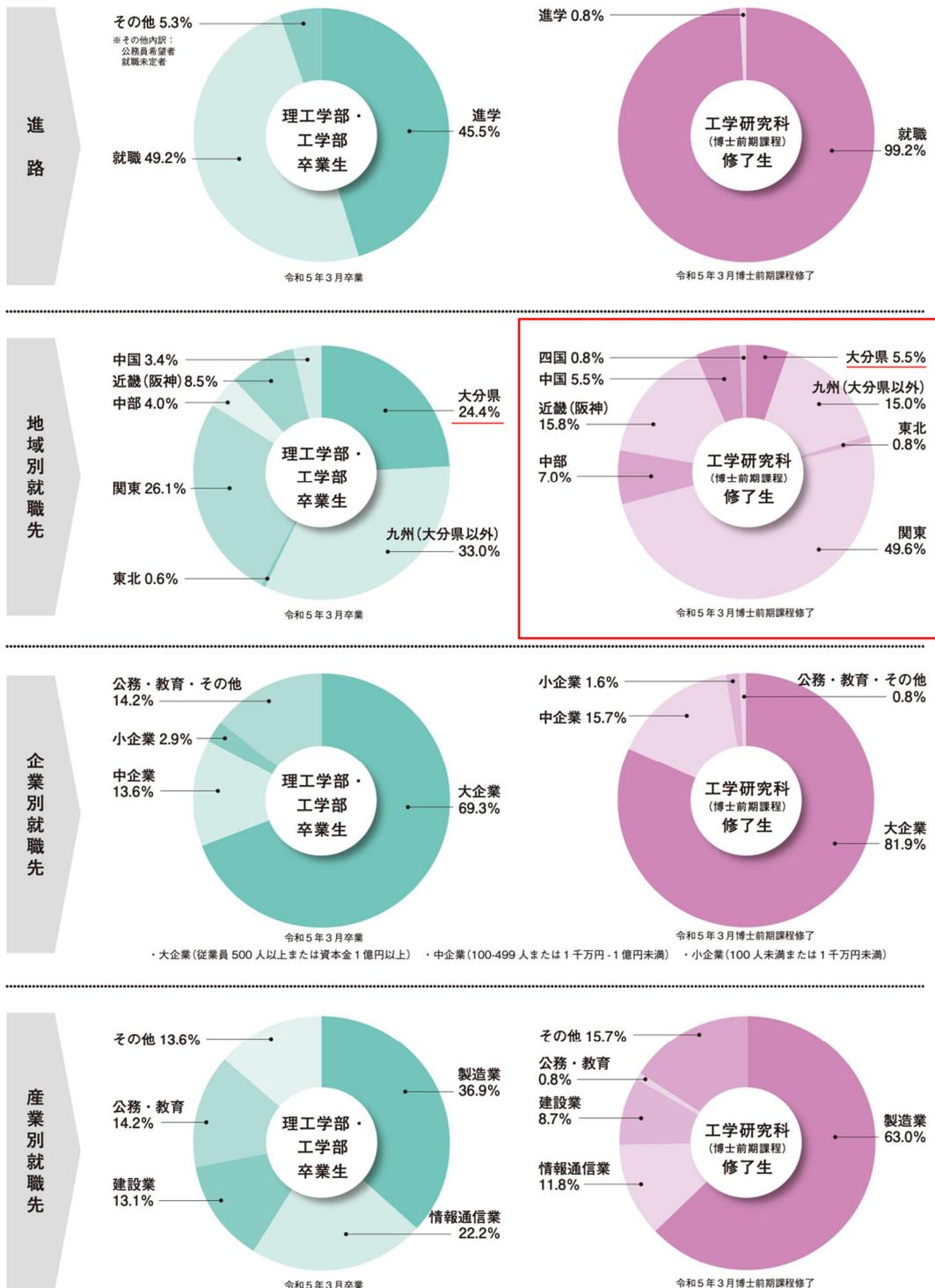
資料10 令和4年度の就職状況（概要）～学部及び博士前期課程～

※大分大学理工学部パンフレットより

[https://www.st.oita-u.ac.jp/home\\_admin/upload/2023oita\\_univ\\_web.pdf](https://www.st.oita-u.ac.jp/home_admin/upload/2023oita_univ_web.pdf)

卒業後の進路について

Data of Career after Graduation 2023



資料 1 1 博士後期課程の就職の状況（過去 3 年間）

年度	修了生	就職先
令和 4 年度	2 名 (一般, 国費留学生)	民間企業 1 名 就職先未定 1 名 (国費留学生, 日本で就 活中)
令和 3 年度	1 名 (私費留学生)	母国で就職
令和 2 年度	修了生 2 名 (一般, 社会人)	私立大学 (教員) 1 名 大分大学理工学部 (技術部) 1 名